



「姉妹校提携を見据えた豪州からの 訪日教育旅行受入可能性の検証」業務

【事業報告書】

令和6年3月29日

1. 業務の概要	P.2 – P.3
事業概要	P.2
実施体制	P.3
2. 業務の内容	P.4 – P.84
(1)姉妹校提携の現状を明らかにする調査	P.4
【北海道・豪州市場の状況調査】	P.5
調査の概要	P.5
調査結果	P.7
北海道・豪州市場の状況調査の総括	P.30
【北海道外・豪州市場の成功事例調査】	P.32
調査の概要	P.33
調査結果	P.33
北海道外・豪州市場の成功事例調査の総括	P.38
(2)豪州市場との姉妹校提携及び訪日教育旅行の誘致が可能であるかの調査	P.40
【豪州現地アンケート調査】	P.41
調査の概要	P.41
調査結果	P.44
豪州現地アンケート調査の総括	P.61
(3)豪州教育旅行関係者等による北海道現地調査	P.62
【教育旅行関係者等の招請】	P.63
招請の概要	P.63
招請の行程	P.64
実施の様子	P.65
課題及び問題点の抽出、整理のための意見交換会	P.68
行程内での学校視察	P.71
被招請者へのヒアリング調査	P.75
地元メディアの取材	P.83
招請終了後の実績	P.83
教育旅行関係者等の招請の総括	P.84
3.総括	P.85 – P.88

1.業務の概要

事業概要

■業務の目的(仕様書より抜粋)

令和5年3月31日に閣議決定された「観光立国推進基本計画」において、「訪日教育旅行の促進」は「インバウンド回復戦略」の一つに位置付けられており、若年層の交流拡大による国際相互理解の増進や地域社会の活性化、将来の観光リピーター層の獲得という観点から、北海道においてもより多くの受入が期待されている。

北海道では四季折々の自然、独特の歴史や文化を生かして様々な切り口で訪日教育旅行の実施が可能であるものの、訪日教育旅行の目的地としての認知度は低く、台湾、中国といった一部の市場からの受入にとどまっているのが現状であり、市場の多様性を確保する観点から、台湾、中国以外の市場からの訪日教育旅行の受入の可能性を検証していく必要がある。

新たな市場として、①日本語学習者の数が多く、日本語を学習するクラス単位での訪日教育旅行の催行が多いことから受入が比較的容易であること、②北海道観光のボトムシーズンである9月～11月に訪日教育旅行が催行されるケースが多く、北海道観光の課題である旅行需要の平準化に寄与すること、③冬のスノーリゾートとして、北海道に対する一定程度の認知があること等から、豪州市場を有望な市場と考えるところである。

一方で、豪州市場からの訪日教育旅行の誘致にあたっては、北海道への直行便がないことによる長時間移動や、旅行費用の増大といったハンデがあり、単なる北海道のプロモーションにとどまらず、より効果的な誘致の手法を確立する必要がある。

こうした背景から先行する台湾市場の事例を調査したところ、姉妹校提携を結んでいる高等学校と継続的に双方向の交流を行っているケースが複数あることが判明したため、姉妹校提携が訪日教育旅行の目的地選定にあたっての決定要因の1つとなりうると考えられる。

そこで本事業では豪州市場を対象に、姉妹校提携という関係性に着目することで北海道への訪日教育旅行誘致が可能であるかを検証する。

また、検証にあたっては、実際に豪州の教育旅行関係者等を招請し、具体的な受入課題の把握と解決に向けた検討及び体験メニュー等のニーズ調査も併せて行うことで、北海道の訪日教育旅行受入体制の向上を図る。

■業務の内容

(1) 姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道・豪州市場の状況調査】

「海外学校との交流受入に係るアンケート調査」および「姉妹校提携の状況及び学校交流の現状に係るアンケート調査」を実施。回答があった122校の調査結果の集計と分析を行った。

【北海道外・豪州市場の成功事例調査】

北海道外の高等学校にて豪州の学校と姉妹校提携を結び国際交流を実施している5校を対象にアンケート調査を実施した。

(2) 豪州市場との姉妹校提携及び訪日教育旅行の誘致が可能であるかの調査

【豪州現地アンケート調査】

豪州の日本への直行便がある都市を中心に93校に対し、学校交流や姉妹校提携の実施状況及び意向を確認するアンケートを実施した。

(3) 豪州教育旅行関係者等による北海道現地調査

【姉妹校提携及び訪日教育旅行の誘致が可能な学校関係者の招請】

姉妹校提携及び訪日教育旅行の誘致が可能な学校関係者4名を2024年1月22日～1月26日の行程で招請した。

(4) 調査結果のとりまとめ

本報告書にて取りまとめた内容を提出。

1,業務の概要

実施体制

本事業の実施体制は以下の通り。

【事業主体】

国土交通省北海道運輸局

【連携】

北海道訪日教育旅行促進協議会



【受託事業者/全体統括】



【日本側】

株式会社JTB 北海道事業部

事業統括責任者

北海道広域代表兼北海道事業部長
阿部 晃士

事業業務責任者

営業第四課
観光開発プロデューサー
柳屋 みゆき

事業業務担当者

◆事業進捗管理

営業第四課
甲斐 星志朗

事業業務担当者

営業第四課
菅藤 こず恵

【現地事務局・業務サポート】



【オーストラリア側】

株式会社JTB シドニー支店
(JTB Australia Pty Ltd)

現地事務局 統括責任者

アウトバウンド ディレクター
Kumiko Hardy

道内のお気に入り: 利尻島、礼文島
(英語・日本語)

現地事務局 運営責任者

MICEチームマネージャー
Toshiya Yamada

道内のお気に入り: 札幌グルメ三昧、洞爺湖、トマム、大雪山
札幌居住歴: 10か月
(英語・日本語)

現地事務局担当者

◆運営・実務

Kota Toda

道内のお気に入り:
知床、宗谷丘陵、礼文島
(英語・日本語・韓国語)

◆運営・実務

Ruri Nakamura

道内のお気に入り:
函館山、五稜郭、北海道駒ヶ岳、醬油おにぎり
函館居住歴: 9か月
(英語・日本語)

◆運営支援

Yun Tran

道内のお気に入り:
阿寒湖、富良野、知床
(英語・日本語・ベトナム語)

協力

◆事業実施サポート

株式会社JTBビジネストラנסフォーム

鈴木 宏之／金田 みゆき／渡部 淳子

連携



(1)姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道・豪州市場の状況調査】

【北海道外・豪州市場の成功事例調査】

(1) 姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道・豪州市場の状況調査】

調査の概要

姉妹校提携の状況及び学校交流の状況について、道内の高等学校にアンケート調査を実施し、122校から回答を得た。

※調査にあたっては、北海道訪日教育旅行促進協議会が令和5年5月に実施した道内の高等学校を対象に実施したアンケート調査、5月の調査で未回答の高等学校を対象とした同年11月のアンケート調査、令和6年1月のヒアリング調査の結果を活用している。

回答数 122校の経緯

令和5年5月に北海道訪日教育旅行促進協議会にて設問を設定した「海外学校との交流受入に係るアンケート調査」を実施。全道275校へ依頼状を送付し81校が回答。

次いで令和5年11月に、北海道運輸局観光部国際観光課及び北海道訪日教育旅行促進協議会にて「海外学校との交流受入に係るアンケート調査」を元に設問を追加した「姉妹校提携の状況及び学校交流の現状に係るアンケート調査」を実施。5月のアンケートにて回答を得られなかった学校に再アプローチを行い、34校が回答。さらに令和6年1月には、特に海外との交流受け入れに能動的な回答を行った40校を北海道運輸局にてピックアップ、電話による詳細な聞き取り調査を実施した。

のべ155校分の回答のうち、重複33校については回答を集約し、122校を回答数とした。

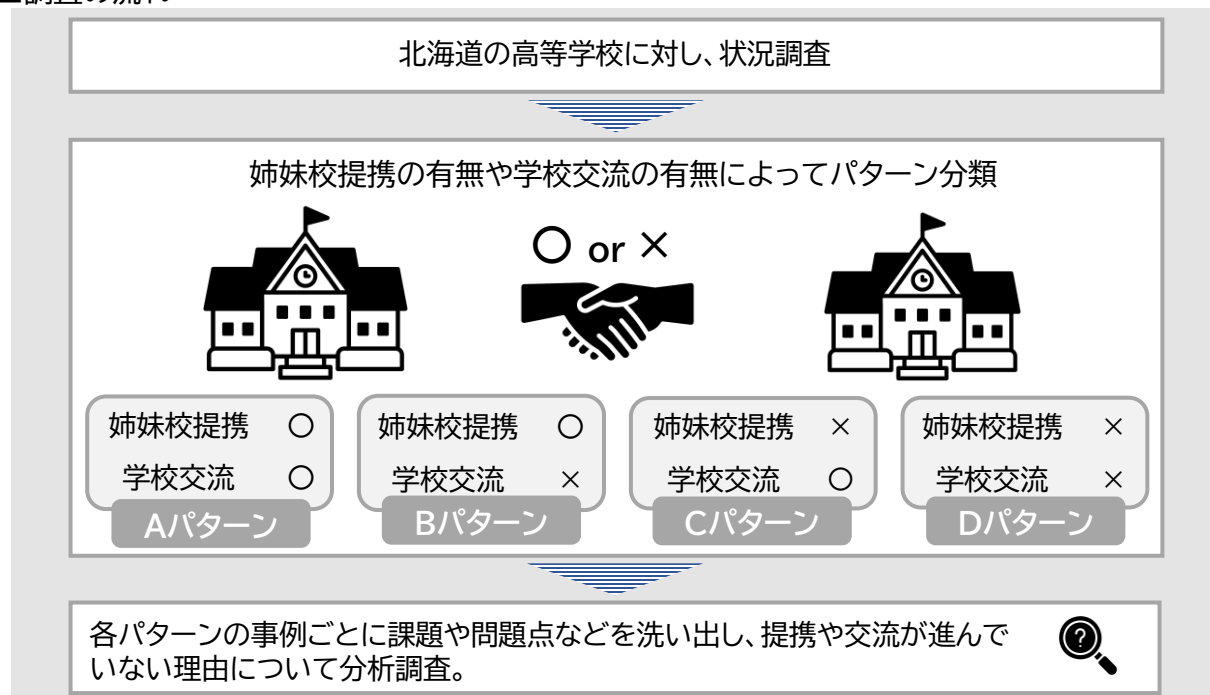
■実施概要

調査手法	① 調査協力依頼書類の郵送またはメール送信(DM)によるアンケート ② 電話またはオンラインによる追加ヒアリング
有効回答件数	北海道内の高等学校122校 (公立104校、私立16校、通信2校)
実施期間	2023年5月～2024年1月

■実施手順

- ① 調査依頼状作成
- ② 全道275校へ依頼状を郵送またはメール配信(有効回答校数は122校)
- ③ 回答率向上の為、協力依頼機関は連名で行い、重複設問などは協議の上調整。
- ④ 後日、必要な学校に対しては電話またはオンライン等での追加ヒアリング

■調査の流れ



(1)姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道・豪州市場の状況調査】

調査の概要(つづき)

■調査内容

調査項目		調査内容	追加調査内容
姉妹校提携への取組	海外との姉妹校提携がある場合	・相手校・国 ・提携の詳細(追加ヒアリング対象) ・実施の目的 ・学校交流への課題感	提携に至る経緯 等
	姉妹校提携が無い場合	・検討状況または提携内容 ・検討段階のレベル、検討状況	
学校交流 訪日教育旅行受入の取組レベル	受入の可否	・検討レベル、今後の検討意向 ・訪日教育旅行受入の課題 ・訪日教育旅行を希望する相手国、理由 ・実施検討への課題感	
	受入可能な場合の追加設問	・受入実績の有無 ・希望する交流方法 ・交流プログラム(体験プログラム 等) ・受入可能人数、時期 ・受入にあたって必要な費用 ・宿泊環境(ホームステイ、施設) ・学校交流窓口、ご担当 ・豪州からの新規交流への取組意向	学校交流の検討状況 本事業での豪州との新規取組意向 等
	受入可能でかつ 受入実績ありの場合	・学校名、団体名 ・国 ・実施人数 ・時期、日数 ・費用 ・実施内容(プログラム、行程)	※場合により後追いヒアリング
		・学校交流の申込ルート(学校間、エージェント、行政 等) ・受入費用 ・費用負担箇所(行政、来訪校 等) ・交流内容 ・交流の成果(レポート、感想 等) ・次回取組意向、課題感	※場合により後追いヒアリング
共通	課題感と問題点	・阻害要因 ・懸念点の抽出	

(1)姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道・豪州市場の状況調査】

該当校数＝設定された設問の内容に該当する学校数
有効回答校数＝該当校数のうち、未回答を除いた回答数

(1) 姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道・豪州市場の状況調査】

調査結果

本調査に協力いただいた122校の属性については以下のとおり。

■北海道内エリア毎の姉妹校提携および学校交流パターン分類

Aパターン

姉妹校提携 ○
学校交流 ○

Bパターン

姉妹校提携 ○
学校交流 ×

Cパターン

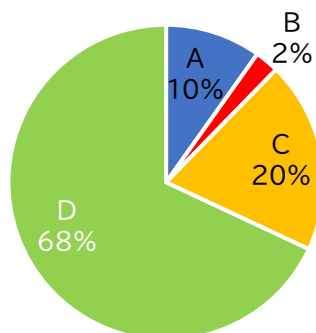
姉妹校提携 ×
学校交流 ○

Dパターン

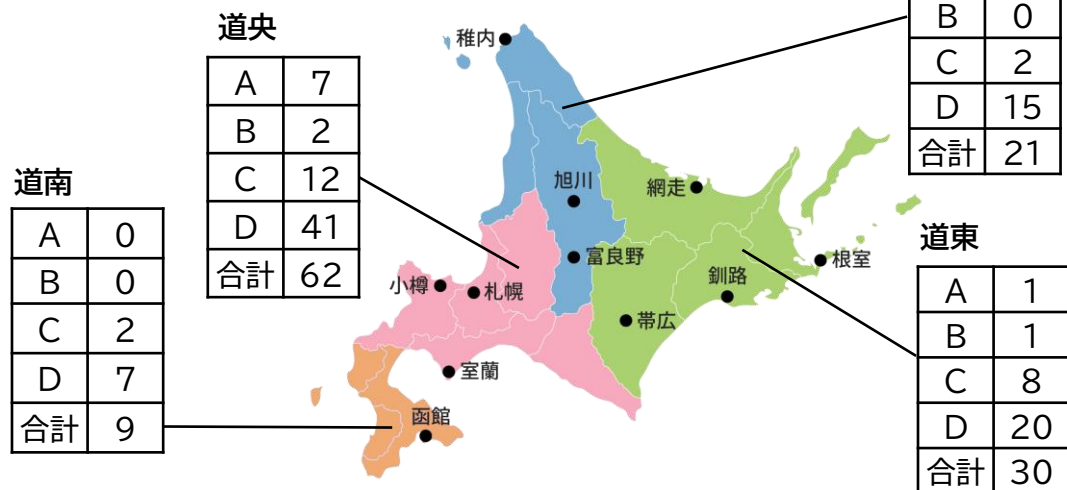
姉妹校提携 ×
学校交流 ×

・北海道全域パターン割合

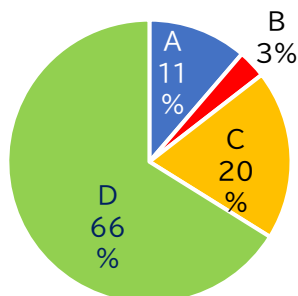
A	12
B	3
C	24
D	83
合計	122



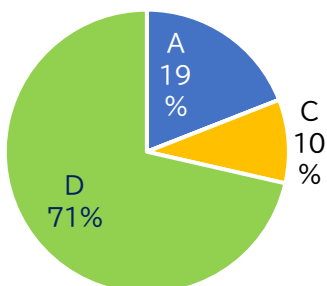
・北海道内エリア別パターン割合



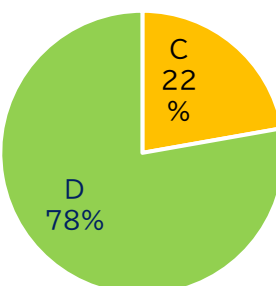
道央



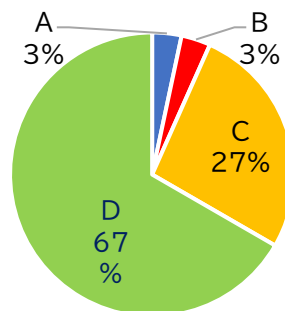
道北



道南



道東



(1)姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道・豪州市場の状況調査】

調査結果

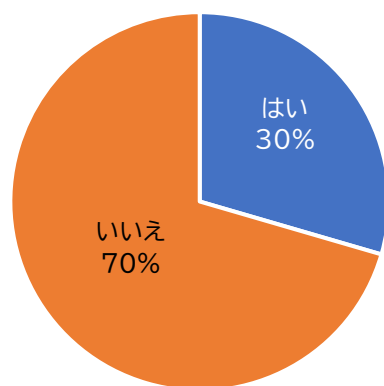
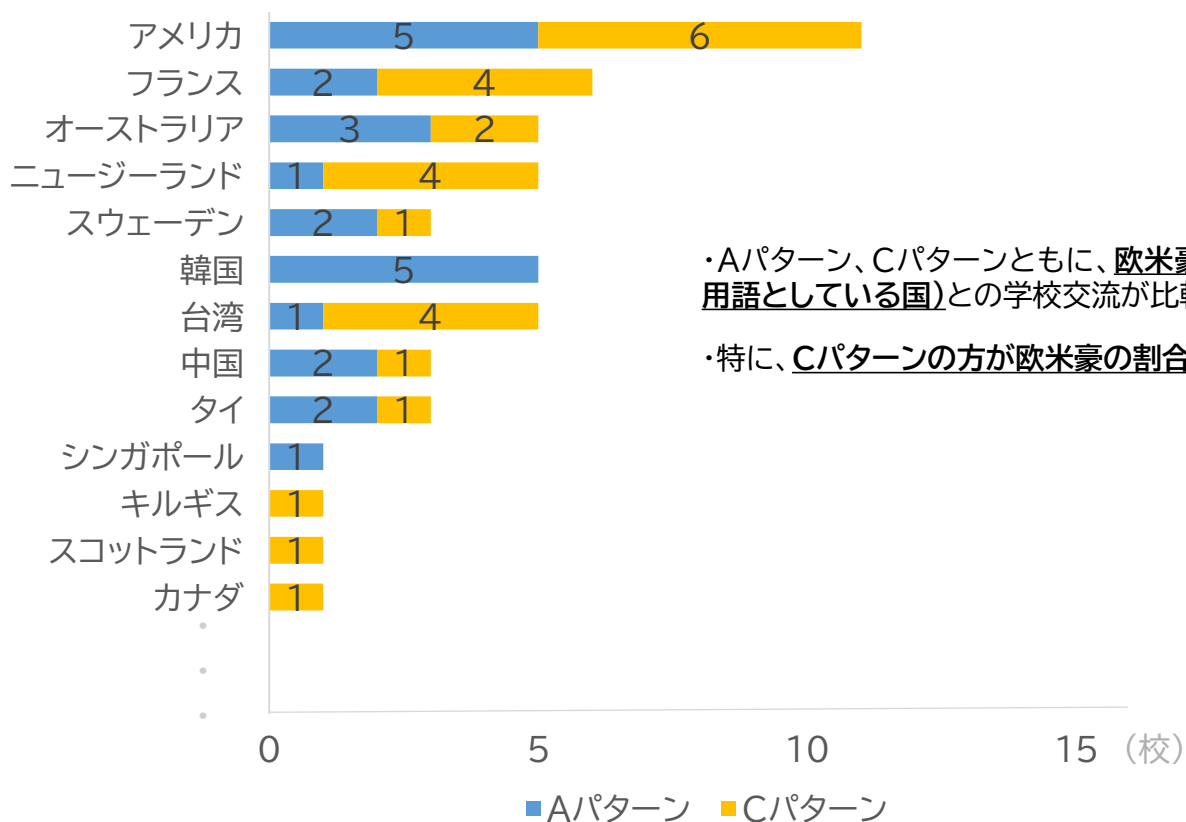
問1.令和元年度～令和4年度までの、海外学校との学校交流(オンライン含む)の実績についてお伺いします。学校交流を実施した実績があるか、「はい」か「いいえ」のいずれかに○を付けてください。また「はい」とご回答いただいた場合は、以下の欄に実施した時期、交流した学校の国・地域、受入人数や交流した内容等を、可能な範囲で記載願います。

■問1-1.学校交流を実施した実績の有無[有効回答校数/該当校数：122/122]

はい	36
いいえ	86

<内訳>

■ Aパターン:12(校)
■ Cパターン:24(校)

■問1-2.学校交流の相手校の所在国[有効回答校数/該当校数：34/36]
(複数回答可)

・Aパターン、Cパターンともに、欧米豪(英語を公用語としている国)との学校交流が比較的多い。

・特に、Cパターンの方が欧米豪の割合は高い。

(1) 姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道・豪州市場の状況調査】

調査結果

(続き)

問1. 令和元年度～令和4年度までの、海外学校との学校交流(オンライン含む)の実績についてお伺いします。学校交流を実施した実績があるか、「はい」か「いいえ」のいずれかに○を付けてください。

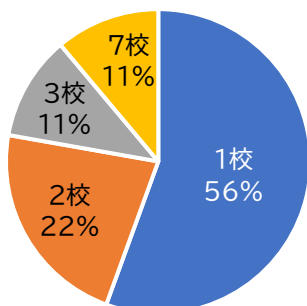
また「はい」とご回答いただいた場合は、以下の欄に実施した時期、交流した学校の国・地域、受入人数や交流した内容等を、可能な範囲で記載願います。

■問1-3. 交流相手校数[有効回答校数/該当校数：23/36]

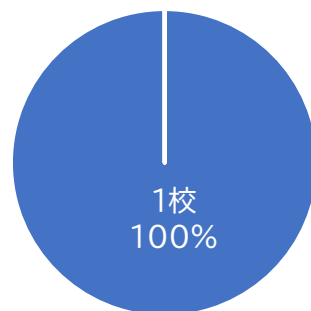
■Aパターン[有効回答校数/該当校数：9/12]

■Cパターン[有効回答校数/該当校数：14/24]

1校	5
2校	2
3校	1
7校	1



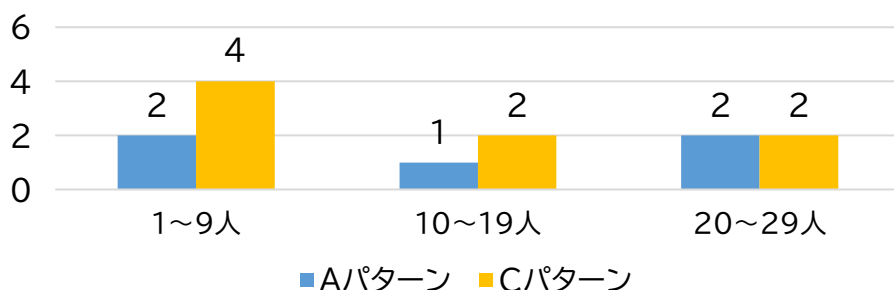
1校	14
2校	0
3校	0
7校	0



・Aパターンは、2校以上の学校と交流を行っているところも半数程度あることが分かる。
・姉妹校提携先が複数のケースや、姉妹校提携先との交流に加え、姉妹校提携を結んでいない学校と学校交流のみ行っているケースもあると推測される。

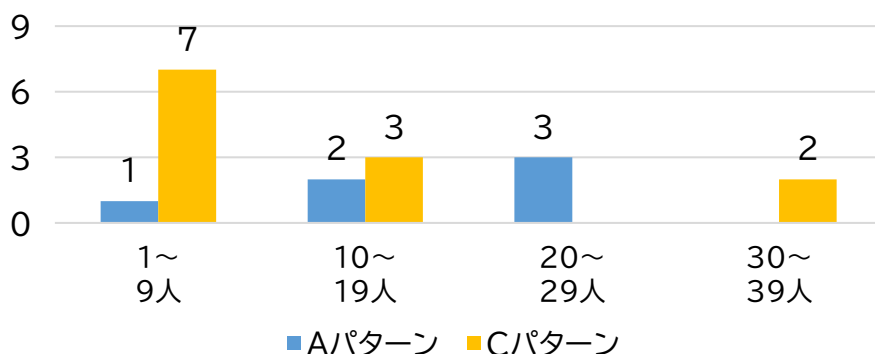
■問1-4. 海外側人数[有効回答校数/該当校数：11/36] (複数回答可)

(校)



■問1-5. 日本側人数[有効回答校数/該当校数：15/36] (複数回答可)

(校)



(1)姉妹校提携の現状を明らかにする調査

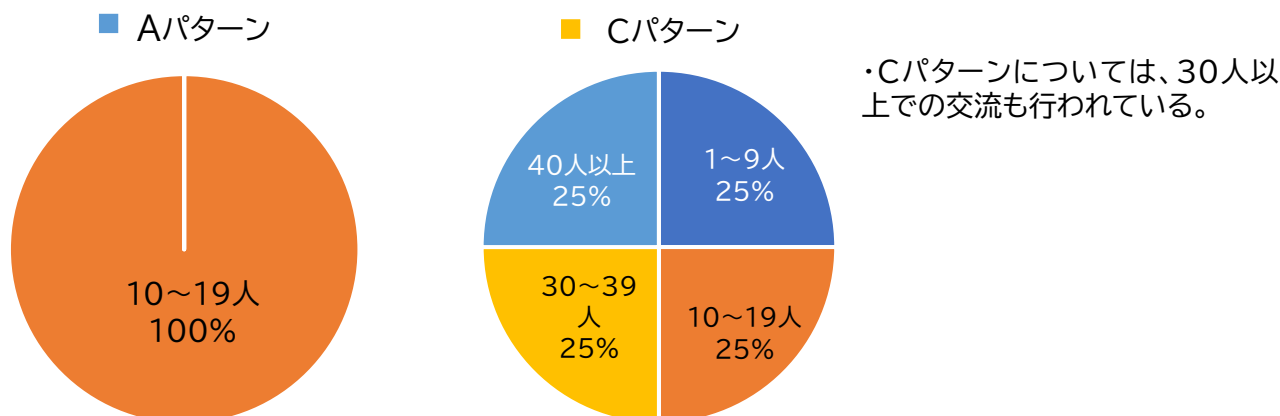
【北海道・豪州市場の状況調査】

調査結果

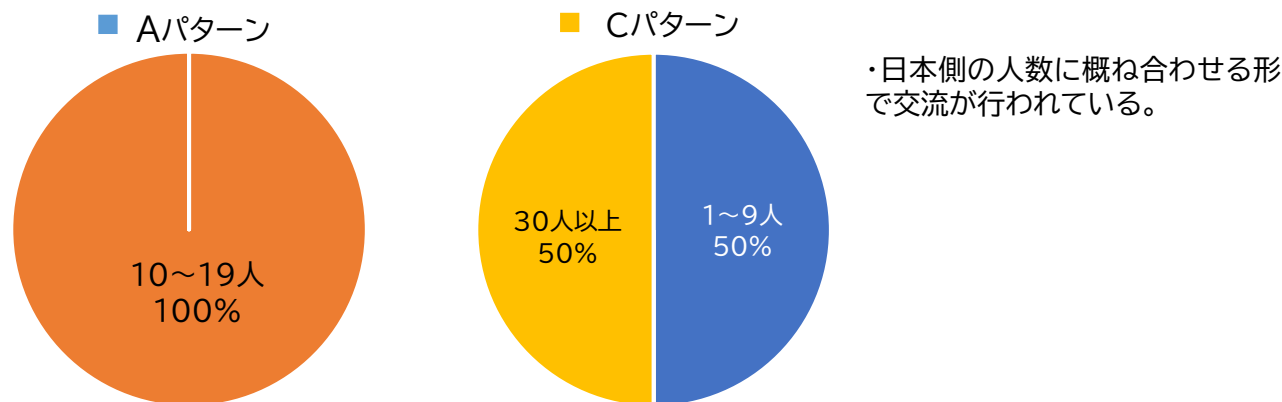
(続き)

問1.令和元年度～令和4年度までの、海外学校との学校交流(オンライン含む)の実績についてお伺いします。学校交流を実施した実績があるか、「はい」か「いいえ」のいずれかに○を付けてください。また「はい」とご回答いただいた場合は、以下の欄に実施した時期、交流した学校の国・地域、受入人数や交流した内容等を、可能な範囲で記載願います。

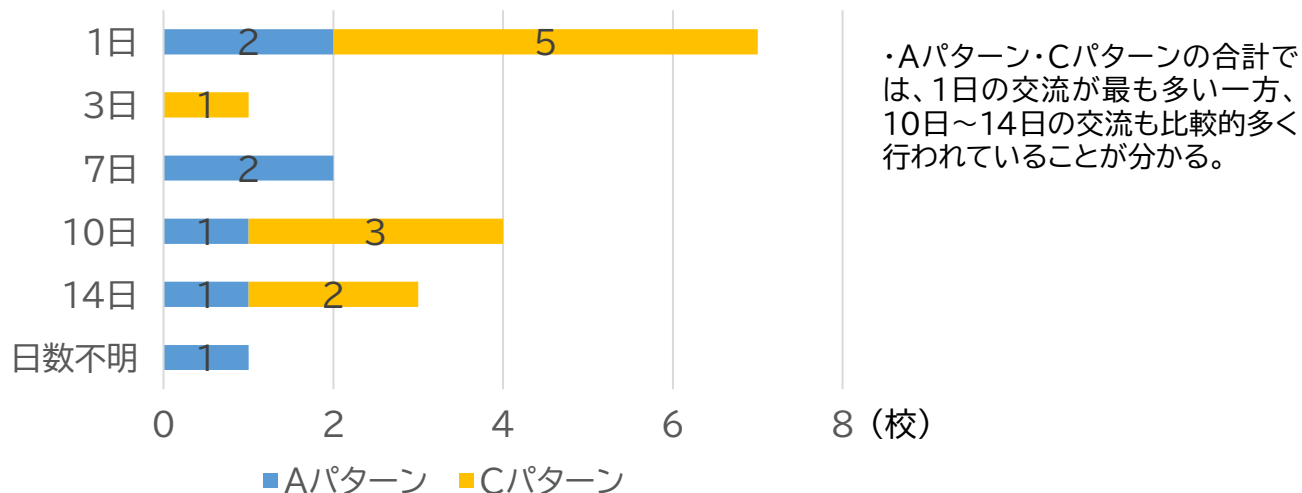
■問1-6.オンライン交流日本側人数[有効回答校数/該当校数：5/36]



■問1-7.オンライン交流相手校人数[有効回答校数/該当校数：3/36]



■問1-8.交流日数[有効回答校数/該当校数：18/36]



(1) 姉妹校提携の現状を明らかにする調査

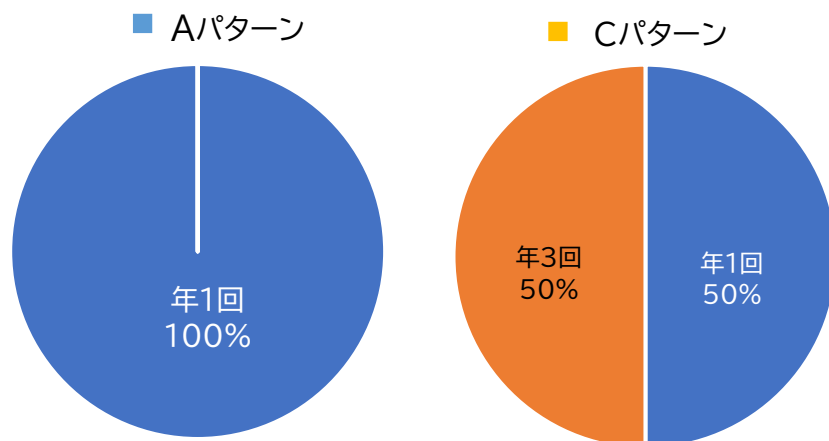
【北海道・豪州市場の状況調査】

調査結果

(続き)

問1. 令和元年度～令和4年度までの、海外学校との学校交流(オンライン含む)の実績についてお伺いします。学校交流を実施した実績があるか、「はい」か「いいえ」のいずれかに○を付けてください。また「はい」とご回答いただいた場合は、以下の欄に実施した時期、交流した学校の国・地域、受入人数や交流した内容等を、可能な範囲で記載願います。

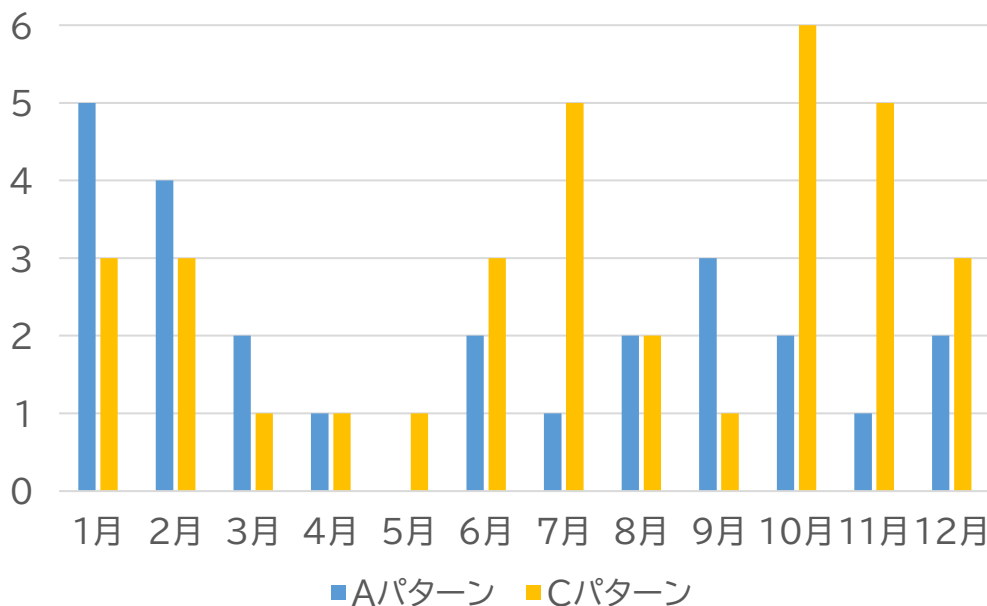
■問1-9. 交流頻度[有効回答校数/該当校数：4/36]



・Cパターンについては年3回以上交流を行っている学校もある。
 ・姉妹校提携を結んでいる学校は、定期的な交流行事として年1回の交流を行う一方、姉妹校提携のない学校では、突発的な交流が多いため、年3回といった交流もあると推測される。

■問1-10. 実施時期[有効回答校数/該当校数：27/36] (複数回答可)

(校)



・CパターンはAパターンと比べて、夏～秋の交流が比較的多い。
 ・Cパターンは欧米豪の学校との交流割合が高く、欧米豪の学校は夏～秋にスクールホリデーがあるため、その時期に交流がしやすいことが一つの要因として考えられる。

(1) 姉妹校提携の現状を明らかにする調査

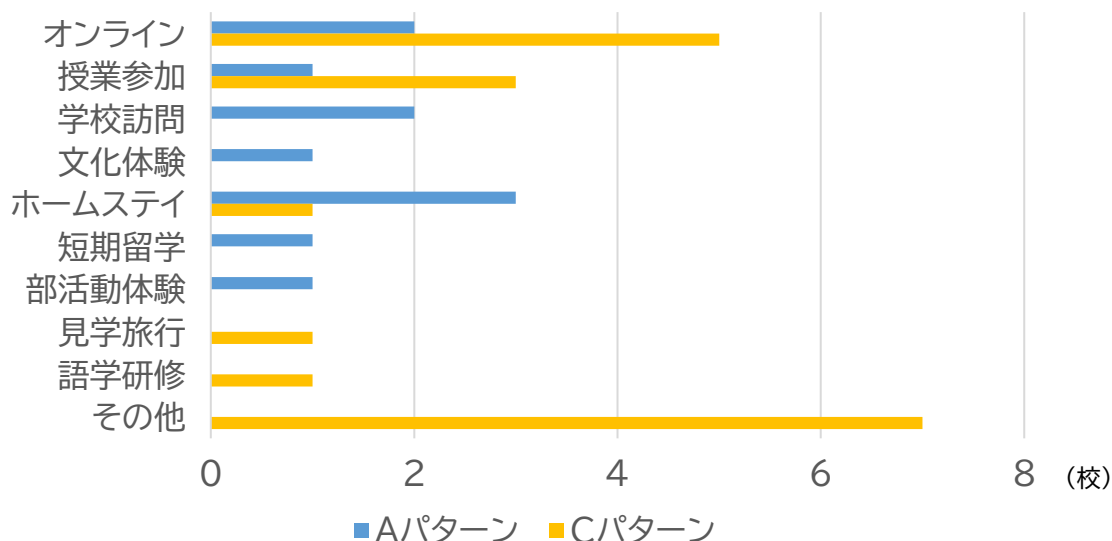
【北海道・豪州市場の状況調査】

調査結果

(続き)

問1. 令和元年度～令和4年度までの、海外学校との学校交流(オンライン含む)の実績についてお伺いします。学校交流を実施した実績があるか、「はい」か「いいえ」のいずれかに○を付けてください。また「はい」とご回答いただいた場合は、以下の欄に実施した時期、交流した学校の国・地域、受入人数や交流した内容等を、可能な範囲で記載願います。

■問1-11. 実施内容[有効回答校数/該当校数：26/36]（複数回答可）



※その他(動画交流、農業教育、スポーツ交流)

・AパターンはCパターンと比べて、学校訪問やホームステイなど、リアルでの交流が比較的多い。
 ・姉妹校提携を結んでいると、すでにオンラインでは交流済みであることも多く、リアルでより深い交流を行っている状況が推測される。

(1)姉妹校提携の現状を明らかにする調査

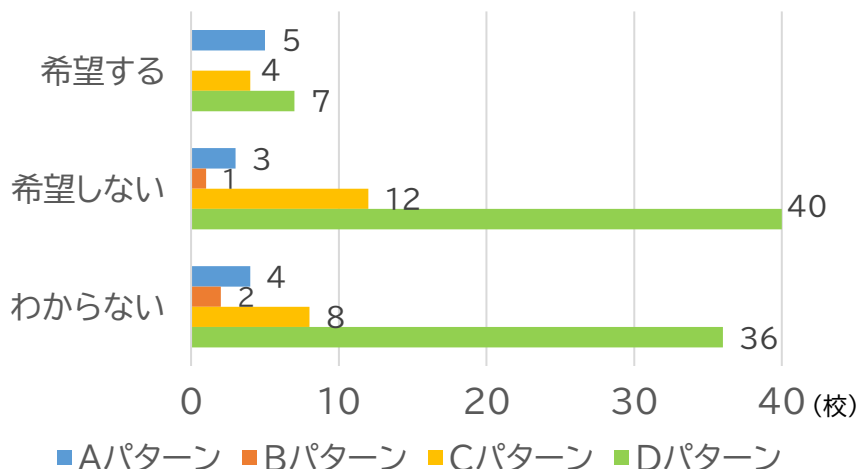
【北海道・豪州市場の状況調査】

調査結果

問2. 今後の海外学校との学校交流の受入意向についてお伺いします。

[有効回答校数/該当校数：122/122]

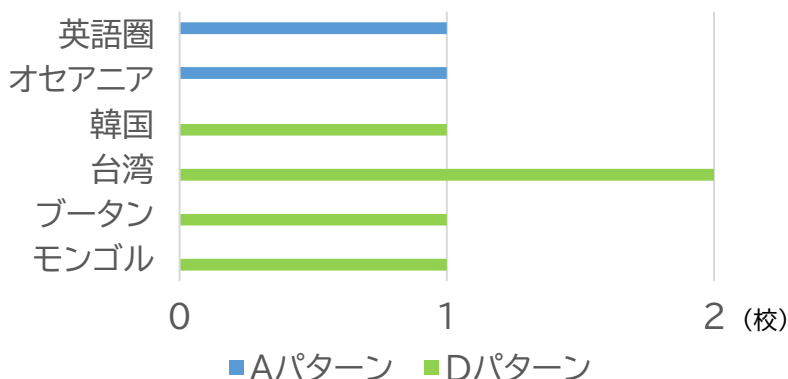
希望する	16 (13%)
希望しない	56 (46%)
わからない	50 (41%)



・Aパターンについては、学校交流を希望すると回答した学校が最も多い一方、B～Dパターンは、希望しない、もしくはわからないと回答した学校が多い。すでに姉妹校提携や学校交流をしている学校とそうではない学校で、今後の学校交流希望に温度差がある。

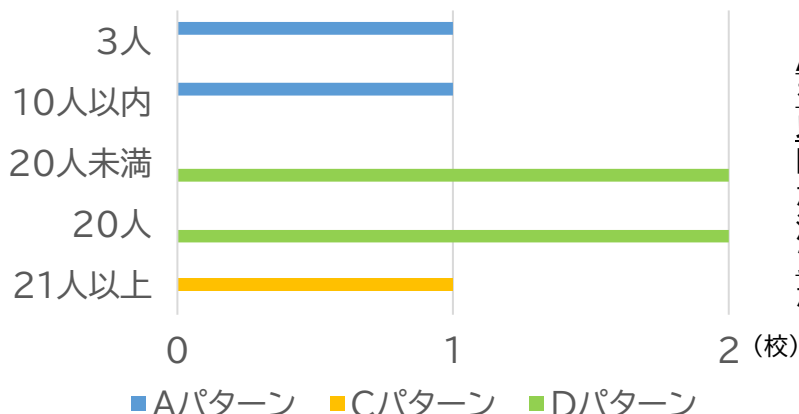
問3. 問2で「希望する」を選択いただいた場合、「受入れが可能な時期」や、「受入れを希望する国・地域」、「受入れ可能な人数」等がございましたら以下の欄に記載願います。

■問3-1. 交流希望先学校の所在国[有効回答校数/該当校数：4/16]（複数回答可）



・今回の質問で回答のあった学校のうち、Aパターンは英語圏を希望している一方、Dパターンは、比較的近しいアジアの国との交流を希望している。

■問3-2. 受け入れ希望人数[有効回答校数/該当校数：7/16]



・今回の質問で回答のあった学校のうち、Aパターンは比較的少人数の受け入れを行っている一方、Cパターンは21人以上との回答となっている。
問1-11で、Aパターンはリアルでの交流が多く、Cパターンはオンラインでの交流が多いことが分かっており、オンラインでの交流の方が人数が多くなることが推測される。

(1)姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道・豪州市場の状況調査】

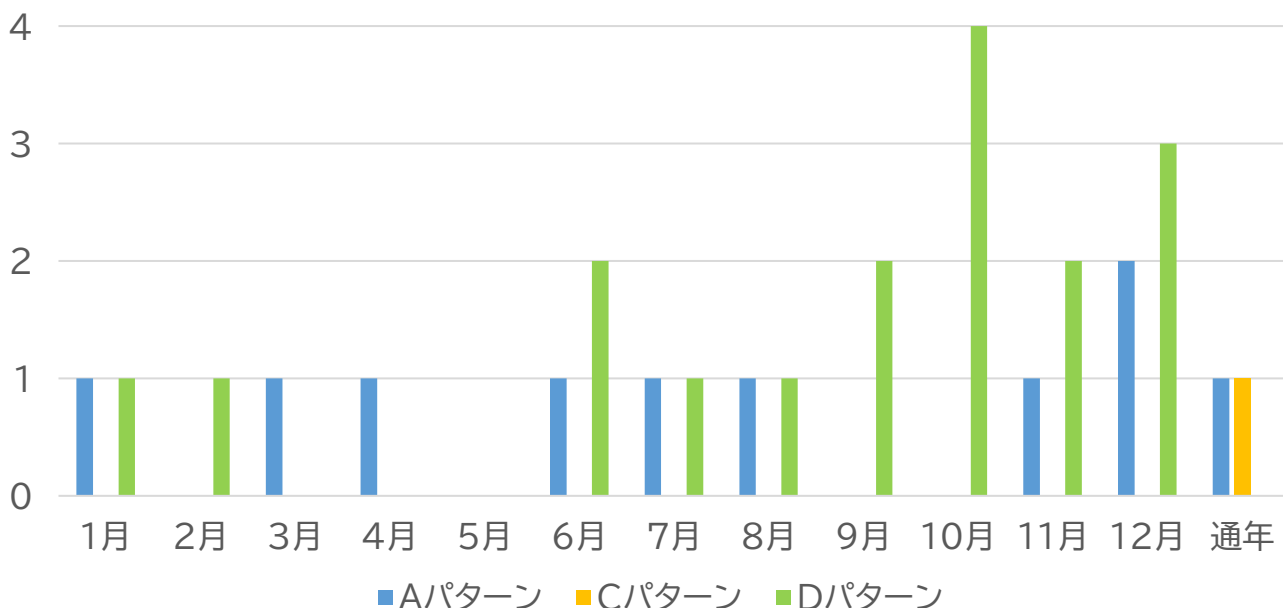
調査結果

(続き)

問3.問2で「希望する」を選択いただいた場合、「受入れが可能な時期」や、「受入れを希望する国・地域」、「受入れ可能な人数」等がございましたら以下の欄に記載願います。

■問3-3.交流希望時期[有効回答校数/該当校数：9/16]（複数回答可）

(校)



・全体として、秋～冬にかけての受け入れ希望が多く、特にDパターンは9～12月の受け入れ希望が多い。比較的先生の業務負担が少なくなるタイミングでの希望が多いと考えられる。

■問3-4.懸念事項[有効回答校数/該当校数：5/14]

懸念点

■ Aパターン

・予算措置の問題が懸念される。物価高騰による旅費の高騰が著しいため。

■ Cパターン

・受け入れに関する費用を工面できない、教員の業務量が多くなりすぎ十分に対応できない可能性がある、学校間の調整を図るコーディネーターが不可欠と考えている。

・英語圏の国の相手校で、さらに農業教育関連校を探している。

■ Dパターン

・授業形態をどうするか、留学に特化した部署の設置。対応する教職員不足。

・特になし

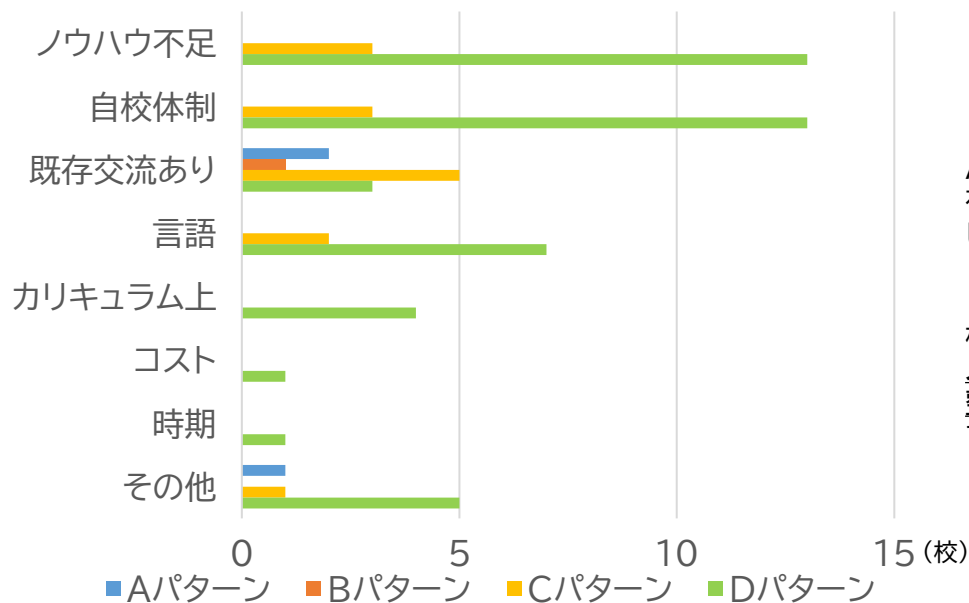
(1) 姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道・豪州市場の状況調査】

調査結果

問4. 問2で「希望しない」を選択いただいた場合、その理由を以下の欄に記載願います。

〔有効回答校数/該当校数：56/56〕 ※記述回答の重複は1つのみ掲載



・学校交流の実施経験があるAパターンやCパターンは、既存交流ありという理由で希望していない学校が多い。

・一方、まだ学校交流や姉妹校提携のないDパターンは、ノウハウ不足や自校の体制が整わないという理由で希望していない学校が多い。

希望しない理由(例)

■ Aパターン

- ・すでにアメリカアラスカ州の学校と姉妹校提携を締結しており、現状以上の国際交流は不要であるため。
- ・令和7年をもって閉校となるため。

■ Bパターン

- ・今年度より姉妹校交流が再開する予定のため、他の海外との交流まで手が回らないため。

■ Cパターン

- ・既に学校交流の機会があるため。
- ・言語の問題などに不安がある。
- ・受入に関わるノウハウが不足しているため。

■ Dパターン

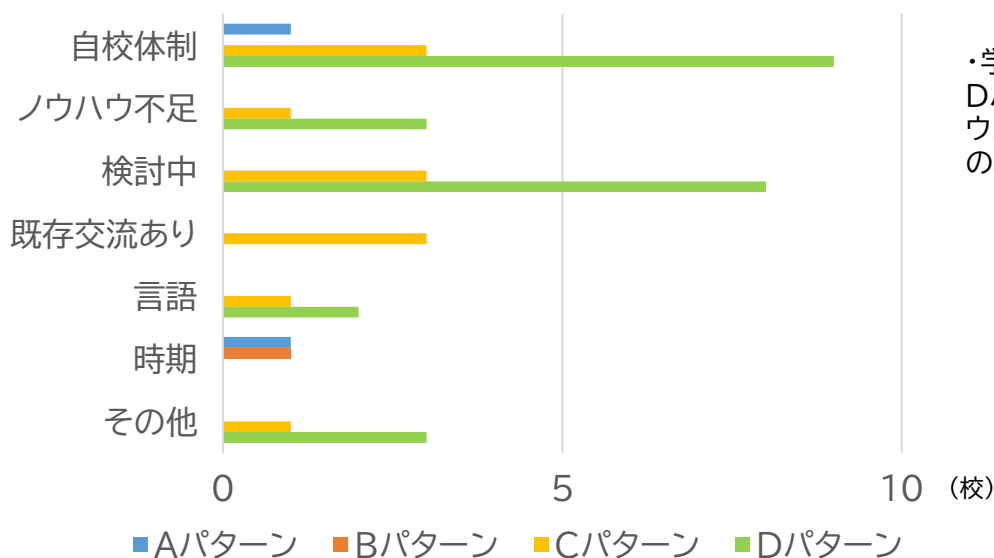
- ・言語の問題などに不安がある。
- ・受け入れ体制が整わない。
- ・受入に関わるノウハウが不足しているため。
- ・学校運営上の余裕がない(時間・業務・組織等)。
- ・海外学校との学校交流による意義、メリットを教員が理解できていないため。
- ・学校の現状や生徒の実態を考慮した結果の判断。
- ・人手不足のため。

(1) 姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道・豪州市場の状況調査】

調査結果

問5. 問2で「わからない」を選択いただいた場合、もし受入れにあたっての懸念点や、不明点などがございましたら以下の欄に記載願います。[有効回答校数/該当校数：42/50]
(複数回答可) ※記述回答の重複は1つのみ掲載



・学校交流の実施経験のないDパターンは、自校の体制やノウハウ不足、教員の業務負担の増加を懸念する声が多い。

懸念点・不明点(例)

■ Aパターン

- ・ 人数や時期などによるので、検討しながらになると思います。

■ Bパターン

- ・ 時期や継続性、事前学習や事後学習、その後の交流などの必要性。

■ Cパターン

- ・ 先方との時間調整などが大きな負担。
- ・ 機会があればその都度、検討する予定。
- ・ ALT拠点校であり、Hokkaido Study Abroad Programへの参加や、留学生の受け入れ等、様々な面で国際理解教育を推進しているので、更に事業を拡大すると、担当の教員の負担が大きくなる。

■ Dパターン

- ・ 本校において過去にあまり前例がなく、国際交流に関係する部活動もないため、日程的な面や内容において懸念しています。
- ・ 受入れを希望するしないの意思決定については、校内でのコンセンサスをとる必要あり。現時点の回答は難しい。ただし、訪問団の来校、交流について受け入れ、オンラインによる交流については、相手校の希望を拒む理由はありません。
- ・ 実施時期や期間、受入人数などを総合的に判断して検討していきたい。
- ・ 受け入れの時間や対応できる生徒がいるか、英語以外の対応が必要かなど受け入れができるか不明な点があるため。
- ・ 担当教諭への業務過多の課題がある。

(1) 姉妹校提携の現状を明らかにする調査

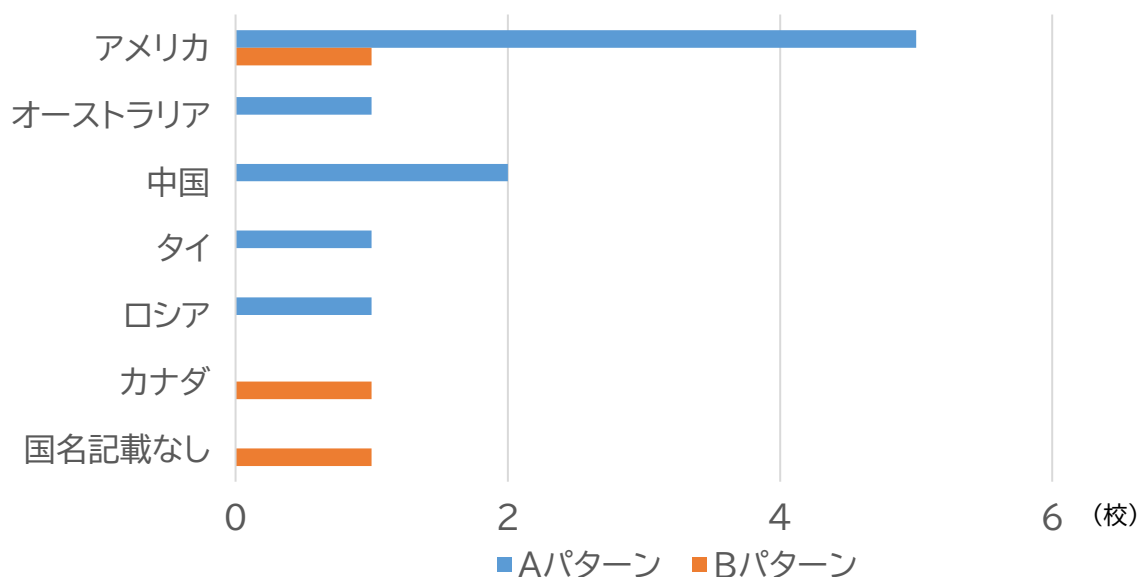
【北海道・豪州市場の状況調査】

調査結果

問6. 海外の学校と姉妹校を締結している場合、その学校のある「国名」、「学校名」、その学校との「これまでの交流実績」あるいは「今後の交流予定」等を以下の欄に記載願います。

■ 姉妹校提携校の所在国[有効回答校数/該当校数：10/15]（複数回答可）

（Aパターン：有効回答校数/該当校数：7/12、Bパターン：有効回答校数/該当校数：3/3）



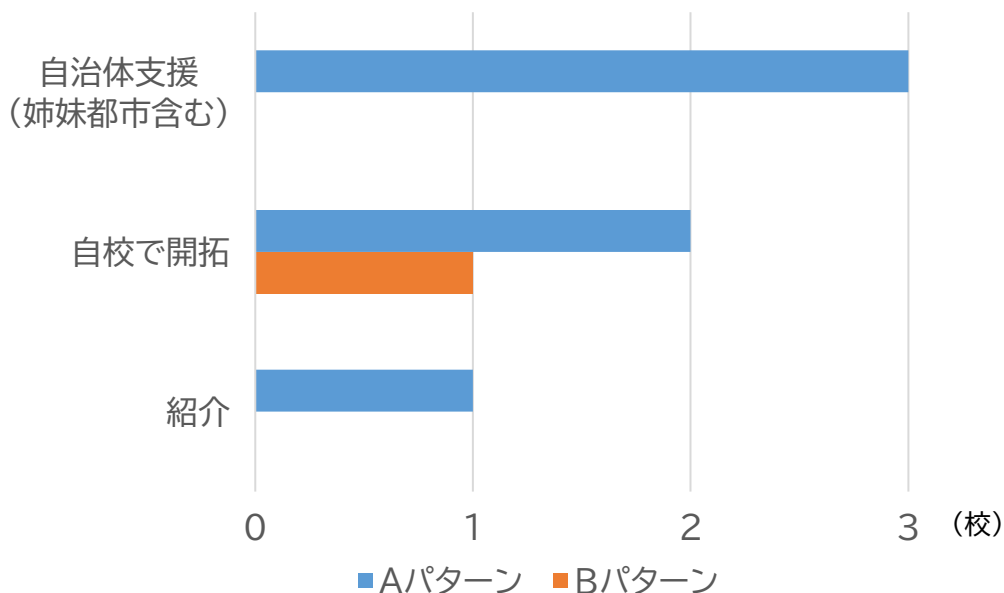
・特にAパターンの学校について、姉妹校提携校の所在国はアメリカが最も多く、中には複数の学校と姉妹校提携を結んでいる学校もある。

(1) 姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道・豪州市場の状況調査】

調査結果

問7. 海外の学校との姉妹校提携に至った経緯・過程について以下の欄に記載願います。
[有効回答校数/該当校数：7/15]



経緯・過程

■ Aパターン

- 札幌市とポートランド市が姉妹提携している流れで姉妹校提携をした。
- 本校の「海外交流事業」に対する支援を行っている町役場のコーディネートにより交流を重ね、令和元年にカリフォルニア州バーバンク市の学校と姉妹校提携を締結した。
- 先代理事長の教育方針を受け、現副理事長が海外の高校と折衝し、1988年に姉妹校締結を行い、翌1989年に第1回の短期留学を開始。
- 日本国際理解推進協会からの紹介＆仲介。

■ Bパターン

- 国際交流を発展させるため、本校職員が姉妹校の可能性のある学校を探しており、実際に本校職員が該当校へ視察に行き、姉妹校提携に至った。

(1)姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道・豪州市場の状況調査】

調査結果

問8.海外の学校との姉妹校提携を締結した目的や、メリット・デメリットについて、以下の欄に記載願います。[有効回答校数/該当校数：9/15]

姉妹校連携の目的

■ Aパターン

- ・「国際的に開かれた学校」を掲げ、生徒の言語能力の向上を図り、グローバルな人材育成を目指す教育方針のため。交換留学の生徒人数が不均衡(来日生徒の人数が多い)なため、ホームステイ先の確保が課題。
- ・外国の文化を体験するため。
- ・外国語への興味関心の向上。
- ・生徒の言語能力の向上を図り、異文化理解、他者理解を深めるため。
- ・本校の海外交流事業の充実のため、継続的な交流により国際理解教育の進展と英語力の向上を通して生徒がグローバルな視野を獲得できるようにするため。経年比較ができるため、事前指導の英語力向上への動機づけとなっている。

■ Bパターン

- ・生徒の英語能力の向上、および異文化理解や国際的視野を広げる教育の実現のため。

メリット

■ Aパターン

- ・異文化理解、生徒の視野が広がる、進路決定につながる。
- ・社会貢献
- ・新たな出会いにより、新たな学びが図られること。

デメリット

■ Aパターン

- ・担当者は姉妹校や現地コーディネーター、町職員との折衝といった負担を長期間にわたって負う必要がある。
- ・デメリットはない。
- ・時差があることでオンライン交流の時程を調整することが困難であること。

■ Bパターン

- ・調整に時間がかかることであると今の段階はあげられる。

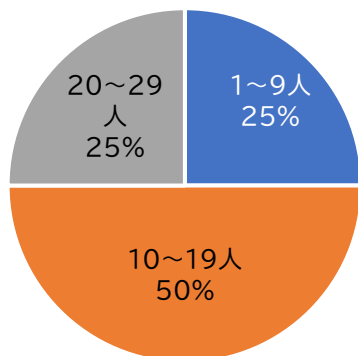
(1)姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道・豪州市場の状況調査】

調査結果

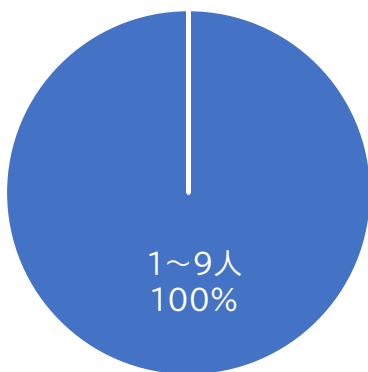
問9.今後、姉妹校との学校交流を予定している場合、交流の頻度や時期、人数、交流の内容について、以下の欄に記載願います。

■問9-1 相手校の人数[有効回答校数/該当校数：4/15]



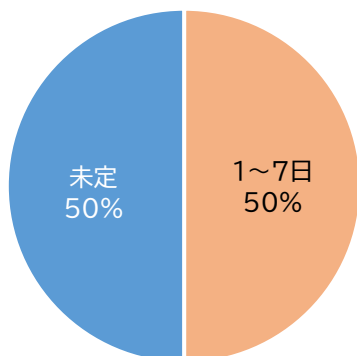
1~9人	1
10~19人	2
20~29人	1

■問9-2 相手校への派遣人数[有効回答校数/該当校数：4/15]



1~9人	4
未定	0

■問9-3 日数[有効回答校数/該当校数：2/15]



1~7日	1
未定	1

(1)姉妹校提携の現状を明らかにする調査

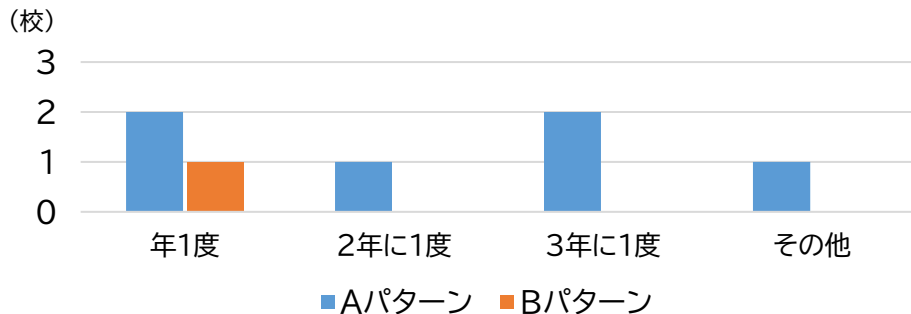
【北海道・豪州市場の状況調査】

調査結果

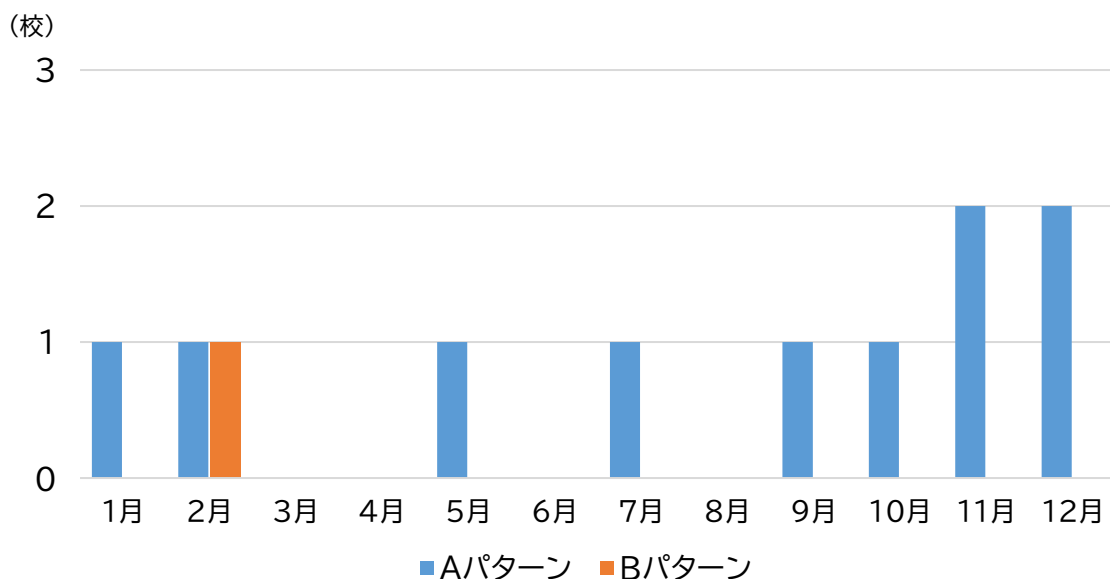
(続き)

問9.今後、姉妹校との学校交流を予定している場合、交流の頻度や時期、人数、交流の内容について、以下の欄に記載願います。

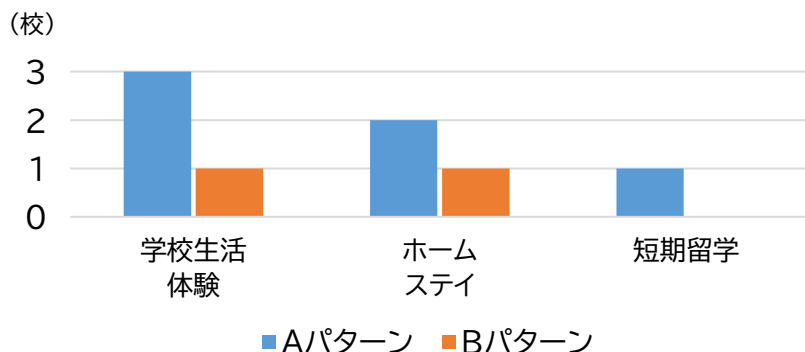
■問9-4 交流頻度[有効回答校数/該当校数：6/15]（複数回答可）



■問9-5 交流時期[有効回答校数/該当校数：5/15]（複数回答可）



■問9-6 交流内容[有効回答校数/該当校数：5/15]（複数回答可）



(1) 姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道・豪州市場の状況調査】

調査結果

問10. 今後、姉妹校との学校交流を予定していない場合、その理由について以下の欄に記載願います。また、交流の予定がなくても姉妹校提携がある場合は、姉妹校締結のみを行った理由について、ご回答ください。[有効回答校数/該当校数：2/9]

理由

■ Aパターン

- ・令和7年をもって当校は閉校となるため、令和6年度は未定。

■ Bパターン

- ・現在の姉妹校と交流を発展させます。

問11. 今後、新たに海外の学校との姉妹校提携を希望するか否か(予定を含む)についてお伺いします。姉妹校提携を希望する場合は、希望条件と現時点での検討状況をご回答ください。また、希望しない場合はその理由をご回答ください。

■問11-1 姉妹校提携を希望する [有効回答校数/該当校数：8/40]

※記述回答の重複は1つのみ掲載

希望する

■ Aパターン

- ・新たに姉妹校提携を希望する方向で検討中。
- ・さらなる姉妹校提携を希望(英語圏)

■ Cパターン

- ・姉妹校提携を希望しており、英語圏の国の相手校でさらに農業教育関連校を探している。
- ・オセアニアやカナダなど地域やその学校の農業に対する知識や取組など、一致するところがあれば提携とまではいかないまでも交流を実施してみたい。

■ Dパターン

- ・台湾との交流を検討している。
- ・現時点では、予定していないですが、条件があれば検討したいと思います。

→ ・すでに姉妹校提携のあるAパターンでも、さらに追加の姉妹校提携を検討されており、意欲的に海外の学校との交流に取り組む学校もある。
・また、姉妹校提携が現在ない学校でも、まずは交流を行い、条件次第では姉妹校提携に結びつけたいと考えている学校もあることが分かる。

(1) 姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道・豪州市場の状況調査】

調査結果

(続き)

問11. 今後、新たに海外の学校との姉妹校提携を希望するか否か(予定を含む)についてお伺いします。姉妹校提携を希望する場合は、希望条件と現時点での検討状況をご回答ください。また、希望しない場合はその理由をご回答ください。

■問11-2 姉妹校提携を希望しない〔有効回答校数/該当校数:22/40〕

※記述回答の重複は1つのみ掲載

希望しない

■ Aパターン

- 希望する声は特に聴いていない。
- 現在、すでに交流している学校があり、小規模な本校にはさらに新しい提携先が増えることは負担が大きく現実的でないため希望していない。
- 現在、アメリカオレゴン州との提携について調整しているため。
- 令和7年をもって当校は閉校となるため、姉妹校提携は終了する。

■ Bパターン

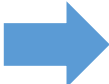
- 現段階では、すでに姉妹校となった学校との関係を強化させて行きたい。

■ Cパターン

- 本校独自の留学制度や、単発での海外からの受け入れなどの実施予定があるため。
- 札幌市の姉妹都市との交流があり、また渡日・帰国生徒の受入もしており、特に必要性を感じていない。
- 自治体の規模が小さく、相手先の受入が極めて困難。交流だけであれば、現状では姉妹校提携は必須ではないことから、希望していない。

■ Dパターン

- カリキュラム上、海外交流の実施は難しい。
- 姉妹提携は特に希望しないが、オンラインなどでの交流を希望している。
- 現状は考えていない。**拡大しても対応しきれない**ため。
- 農業や福祉の実習を含め行事が多く、対応が難しいため希望していません。
- 予算的にハードルが高い**です。
- 生徒の語学力の対応ができていないため。
- 現段階では、姉妹校提携の必要性を感じないため。
- 人手不足のため。



・既存の姉妹校との連携強化や、学校独自に学校交流を実施する動きもある一方、**教職員の負担増や学校行事との兼ね合い**などにより、希望していない学校もあることが分かる。

(1) 姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道・豪州市場の状況調査】

調査結果

(続き)

問11. 今後、新たに海外の学校との姉妹校提携を希望するか否か(予定を含む)についてお伺いします。姉妹校提携を希望する場合は、希望条件と現時点での検討状況をご回答ください。また、希望しない場合はその理由をご回答ください。[有効回答校数/該当校数: 3/40]

■問11-3 姉妹校提携を希望するかわからない[有効回答校数/該当校数: 3/40]

わからない

■ Aパターン

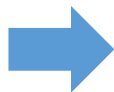
- 希望しないわけではないが、検討していない。

■ Cパターン

- 未定

■ Dパターン

- 本校は、選択授業の中で海外視察研修を実施しており、今年度もオーストラリアへ行った実績はある。そのような背景の中で、オーストラリアの学校と姉妹校提携を結ぶことは有益と考えられる。ただ現段階では、姉妹校提携にあたり町や町教育委員会との兼ね合いがあるため、実際に提携が行えるかは現段階で未定です。



・未定の学校がある一方、学校としては前向きな考えであっても、自治体や教育委員会との調整次第というケースも見受けられる。

(1) 姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道・豪州市場の状況調査】

調査結果

問12.過去に交流実績がある場合、学校交流の申込みルート(学校間、旅行会社、行政等)について以下の欄に記載願います。[有効回答校数/該当校数：15/18] (複数回答可)

申込みルート

■ Aパターン

- ・ 当校の位置する市と、姉妹都市である市から交流の希望があり、市役所による調整を経て受入を行った。市の職員からの紹介により、調整を経て受入を行った。
- ・ 札幌市とポートランド市が姉妹提携している流れで、市役所による調整を経て姉妹校提携をした。
- ・ 令和2年度に受け入れの話があり、礼文町と連携しながら令和元年度を準備に充ててきたが、コロナ禍により実現しなかった。
- ・ 当校の位置する市と姉妹都市である市から交流の希望があり、市役所による調整を経て受入を行った。国際教育交流団体(AFS)からの依頼があり、受入を行った。
- ・ 飛行機、ホテルの手配は旅行会社。他は学校間。
- ・ 姉妹校間で交流申し込み及び打ち合わせを行い、必要に応じて旅行会社に交通・宿泊の手配を依頼する。
- ・ 当時の校長によるつながり。

■ Cパターン

- ・ 当校の位置する市と姉妹都市である市から交流の希望があり、市役所による調整を経て受入を行った。ポートランド市と姉妹都市である。
- ・ 札幌市と姉妹都市にあるポートランド市と札幌市立高等学校・特別支援学校校長会の提携により、調整を経て受け入れを行った。
- ・ フランス側学校から本校の担当(英語科)に留学希望があり受け入れを行った。アメリカの学校は本校の英語科教員が直接連絡を取り交流を開始したもの。
- ・ JICAの草の根事業のため、事業委託者が海外等とのやりとりを行う。校内的には担当者が窓口となり進めた。
- ・ 農林水産省の主催で日仏農業教育連携の交流活動に取り組む高校がオンライン上で集まり、交流校の紹介や交流内容についての発表を行ったことがきっかけ。

・Aパターン、Cパターンともに、姉妹都市をきっかけとした自治体を通じての調整のほか、学校間で直接連絡を取り合って学校交流を行っているケースもある。
・また、Cパターンでは、省庁主催の会議をきっかけとした学校交流があることも分かる。

(1) 姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道・豪州市場の状況調査】

調査結果

問13.過去に交流実績がある場合、交流による成果について以下の欄に記載願います。

■問13-1 交流による成果[有効回答校数/該当校数：13/18]

(複数回答可) ※記述回答の重複は1つのみ掲載

交流の成果

■ Aパターン

- ・ 言葉の交流、文化交流(ホームステイ含む)により、相互理解が深まった。
- ・ 生徒が他国の文化や習慣の違いを理解することで、思考の幅が広がった。また、進路希望の幅も広がっている。
- ・ グローバルコースを持つ本校生徒の意識の変化を感じる。
- ・ (1)よりよい社会のために貢献するグローバルリーダーとなるために、異なる言語や文化の中で生活する体験を通し、他に関わる能力や実践的なコミュニケーション能力を育てる。
(2) 同じ創立者の精神のもと、平和をもたらす行動力育成を目指して、姉妹校生徒と共に学び、本校の代表として交流し、相互理解と親善を深め、より深く建学の精神を理解し、帰国後の学校生活に活かす。(3)現地の言葉で行われる授業に取り組む積極性と自立心を育てる。上記の目的に対し、生徒自身の成長に大きな成果を上げている。
- ・ 外国語への興味、関心の向上。
- ・ 生徒が日本の文化を振り返り、他国の文化を学ぶ機会となった。他国への興味関心が高まり外国へ進学したり、反対に外国の生徒が日本の大学を受験したりするケースも出てきた。長期間の受入となった際に、国際教育交流団体(AFS)を通じて学生寮を活用した。

■ Cパターン

- ・ 英語圏の生徒との交流により、他文化への理解の促進と語学への興味関心が深まった。
- ・ 2週間の交流により、ホストとゲストが互いの文化・習慣の違いについて深く学ぶことができた。
- ・ 生徒の国際理解が深まった。生徒の語学学習に対する意欲が促進されたとともに、外国文化に対する興味が深まった。
- ・ 実際に教員、生徒が現地を訪問することで、それぞれの目的や課題がはっきりする。生徒同士は直接接することで、言葉の壁など問題とせず交流することができた。
- ・ オンライン交流を通して異国の言語や文化を肌身で感じ、主体的な学習姿勢を養うことができた。また、農業技術について国際的な視野を養い、農業の担い手に必要とされる能力について考えることができた。

(1)姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道・豪州市場の状況調査】

調査結果

(続き)

問13.過去に交流実績がある場合、交流による成果について以下の欄に記載願います。

■問13-2 交流による課題〔有効回答校数/該当校数：4/18〕

課題

■ Aパターン

- ・ 準備段階からの担当教諭が業務過多となる課題がある。
- ・ ホームステイ先を探す負担が大きい。

■ Cパターン

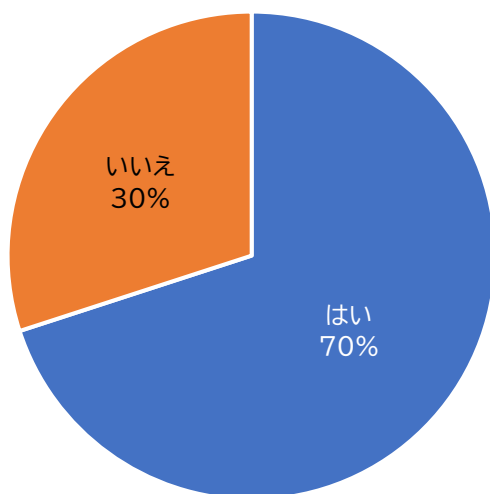
- ・ フランスとの交流では相手国の担当者が変わってしまうと、振り出しになってしまい交流が進まなかった。
- ・ 時差もありライブ配信できず、動画も容量の関係でうまくやりとりできない場面もあった様子。
- ・ 国際協力機構(JICA)の事業が終了した後どのように連携、交流していくことができるか。
- ・ システムの不具合があった。
- ・ 自分の英語力の把握 英語で自国の文化・政治の説明をする機会があったが、そもそも自国に関する理解が不足をしていた。

(1)姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道・豪州市場の状況調査】

調査結果

問14.本協議会では今後、オーストラリアとの交流促進に取り組んで参りたいと考えており、オーストラリアからの学校交流依頼があった場合に、貴校を紹介させていただいてもよろしいでしょうか。
[有効回答校数/該当校数：10/42]



・「いいえ」と回答したのはいずれもDパターンの学校で、まだ受け入れ体制が整わない等の理由により、現時点での紹介は辞退されているものと考えられる。

(1) 姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道・豪州市場の状況調査】

北海道における現状調査の総括

北海道における現状調査

訪日教育旅行は、海外の学校に通う生徒・児童が、教職員などの引率のもと、学校教育の一環として日本を訪れる団体旅行として定義されている。安全性が高く、教育素材も豊富な日本は、教育旅行の訪問地として人気が高く世界中から多くの青少年が「語学学習」「国際交流」「異文化学習」などをテーマに日本を訪れている。訪日教育旅行を受け入れることは地域の将来を支える国際人材の育成と観光・教育を通じた地域振興、将来のリピーター層の獲得など、学校と地域の双方にとって大きな効果も期待でき、推奨すべき取り組みとされている。

本調査は、北海道内における高等学校275校を対象として、姉妹校提携及び学校交流の現状を明らかにするとともに、今後の実施意向についてヒアリングを行った調査となっている。調査対象へは事業期間中3回の協力要請を行い、回答をいただいたのは122校で、北海道内高等学校全体の44%の回答を収集している。

1: 北海道における姉妹校提携、学校交流の現状

本調査では、回答いただいた高校を以下の4パターンに集約し、属性を集計している。

Aパターン: 姉妹校提携も学校交流も行っている

Bパターン: 姉妹校提携はあるが、学校交流は行っていない。

Cパターン: 姉妹校提携はないが、学校交流の経験がある。

Dパターン: 姉妹校提携も学校交流も行っていない。

パターンごとに振り分けると、少なくとも姉妹校提携あるいは学校交流を行っている(A～Cパターン)属性になるのは、全体の約3割(39校)であり、さらに姉妹校提携と学校交流の両方を行っている学校に限ると約1割(12校)となるため、北海道ではまだまだ海外交流を広げる余地がある。また、姉妹校提携を行っていると答えた15校は、道央(主に札幌・千歳)9校、道北4校、道東2校となっており、さらなる検証が必要ではあるが、新千歳・旭川といった空港があるエリアに比較的多く分布している。(P8より)

学校交流先については「アメリカ」が最も多く、次いで「フランス」、「オーストラリア」と続いており、欧米豪との学校交流が多くなっている。(P9 1-2回答より)

また、学校交流している相手校は大半が1校であるが、2校以上と交流している学校も一部あることが分かる。(P10 問1-3回答より)

さらに、Aパターンは7日以上の日数で交流している割合が高いことに加え、学校訪問やホームステイなど、リアルでの交流の割合も高いことから、比較的長い時間かつリアルでより深い交流を行っていることも分かる。(P11 問1-8、P13 問1-11回答より)

受け入れの時期については、Aパターンは1月～2月、Cパターンは夏～秋の割合が比較的高い。特に、Cパターンは欧米豪との交流割合が高く、欧米豪におけるスクールホリデーと国内の教育カリキュラムの都合などが一致する時期に交流を行っていると考えることができる。(P9 問1-2、P12 問1-10回答より)

(参考 姉妹校提携の多い国のスクールホリデー)

	春	夏	秋	冬
アメリカ		5月下旬～8月下旬 or 6月中旬～9月上旬		12月下旬～1月上旬 and 2月／3月に1週間
フランス		7月下旬～8月下旬	10月中旬～11月上旬	12月下旬～1月上旬 and 2月／3月に2週間
台湾		7月中旬～8月下旬		1月中旬～2月中旬
韓国		7月下旬～8月下旬		1月中旬～2月下旬
オーストラリア	4月上旬～4月下旬 or 4月中旬～4月下旬	6月下旬～7月中旬 or 7月上旬～7月下旬	9月下旬～10月上旬	12月中旬～1月下旬

(1) 姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道・豪州市場の状況調査】

北海道における現状調査の総括

過去の学校交流の申込みルート、きっかけについて、Aパターン、Cパターンともに姉妹都市をきっかけとした自治体を通じての調整が多いほか、学校間で直接連絡を取り合って交流を行っているケースや省庁主催の会議がきっかけのケースもある。(P26 問12回答より)

交流の成果と課題について、文化・習慣の違いへの理解の深まりや、生徒・学生のコミュニケーション能力の向上、主体的な学習姿勢が養われるといった点で、非常に大きな成果を得られたという声が多い一方、時差がある地域との交流の難しさや、職員の業務過多などの課題も挙げられている。(P27 問13-1、P28 問13-2回答より)

2: 今後の交流の意向と課題

今後の学校交流の受け入れについて、受け入れを希望すると回答した高校は全体の13%ほどにとどまっている。一方で「希望しない」「わからない」と回答した学校はそれぞれ4割を超えている。(P14 問2回答より)

「希望する」と回答した学校のうち、時期について、特にDパターンは9～12月の受け入れ希望が多い。初めての交流となるため、教職員の業務負担が比較的少なくなるタイミングでの交流希望がより強いと考えられる。(P15 問3-3回答より)

また、費用面や教職員の負担が主な懸念点として挙げられている。(P15 問3-4回答より)

「希望しない」「わからない」と回答した学校のうち、AパターンとCパターンの主な理由は「既存交流あり」の割合が高い一方、Dパターンは「ノウハウ不足」や「自校の体制が整わない」、「業務過多」といった回答の割合が高い。(P16 問4、P17 問5回答より)

3: 姉妹校提携の概況と今後の意向について

姉妹校提携先の所在国はアメリカが最も多く、中には複数の学校と提携を結んでいる学校もある。(P18 問6回答あり)

提携の経緯としては、姉妹都市をきっかけとした自治体の支援が多いほか、教職員自らの働きかけで提携に至ったケースもある。(P19 問7回答あり)

姉妹校提携を結ぶことは、海外学校との継続的な交流の機会が見込まれ、生徒の語学能力の向上や、異文化理解の促進などグローバル人材の育成につながる。(P20 問8回答より)

今後の姉妹校提携の希望について、Aパターンでは、さらに追加の姉妹校提携を検討しているという回答がある一方、CパターンやDパターンでは、まずは通常の学校交流を今後行い、条件次第では姉妹校提携に結びつけたい意向も見受けられる。(P23 問11-1回答より)

姉妹校提携に向けた課題としては、学校交流同様、教職員の負担増や予算面の懸念があるほか、姉妹校提携にあたっては自治体や教育委員会との調整も必要となるため、その調整次第という回答もある。(P24 問11-2回答、P25 問11-3回答より)

4: 総括

まだ学校交流や姉妹校提携を行ったことがない学校でも、海外学校との交流については一定の理解、実施の希望もある一方、A・Bパターンは主に教職員の負担増、費用面の懸念、C・Dパターンはノウハウ不足などにより、実施に至っていない学校も多いと見受けられる。

学校交流・姉妹校提携拡大に向けた各パターンのアプローチとして、以下が考えられる。

- ・Aパターン: 実際の交流や新たなマッチングにおける連絡調整等を必要に応じてフォロー
- ・Bパターン: すでに提携している姉妹校との交流について、連絡調整等の支援の強化
- ・Cパターン: リアルでの交流の事例や成果、姉妹校提携のノウハウ等を共有・サポート
- ・Dパターン: 標準的な学校交流の事例や成果、交流までの流れを丁寧に共有・サポート

今回の調査結果を踏まえた業務全体の総括はP85以降に改めて記載する。

(1)姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道外・豪州市場の成功事例調査】

(1) 姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道外・豪州市場の成功事例調査】

調査の概要

道外の高等学校で、豪州の学校と姉妹提携を結び国際交流を実施した事のある学校へ、アンケート調査を行った。

■調査条件(対象の選定基準)

道外の高等学校で豪州の学校と姉妹校提携をしていること

■実施手順

- ① 郵送・メール送信・直接訪問などの手段にて、調査協力依頼の発信
- ② 一部電話、オンライン等による追加ヒアリング

■調査項目

【豪州の学校との姉妹校提携について】

- ・姉妹校提携に至った経緯・過程
- ・姉妹校提携を締結した目的、メリット・デメリット

【学校交流についての事例】

- ・実施時期、滞在日数、行程、人数、内容、頻度
- ・調整担当(学校間、旅行会社、行政等)
- ・成果と課題、今後の継続についての有無
- ・姉妹校提携を新たに検討する場合の相談先
- ・学校交流後の動向や影響
- ・姉妹校提携にあたっての予算、かかった費用

■回答いただいた学校

①A高等学校(東京都)(私立)	④D高等学校(福岡県)(私立)
②B高等学校(東京都)(私立)	⑤E高等学校(東京都)(私立)
③C高等学校(岩手県)(私立)	計5校

調査結果

【海外の学校との姉妹校提携について】

1. 豪州の姉妹校と姉妹校提携に至った経緯・過程について

①	姉妹校提携担当の職員のコネクション
②	本校英語科教諭が、サバティカルで1年間オーストラリアに滞在していた際、姉妹校として提携していただける学校を探し、帰国後、当時の校長がオーストラリアに渡り締結に至った。(約10年前)
③	学校の教育目標に「21 世紀のグローバル社会を見据えて、国際理解教育を推進し、世界に通用する人間力を備えたグローバルリーダーを育成する。」と掲げていることから、1996 年特進コース、進学コースの設立をきっかけに、先代の理事長と第5代校長の両名で姉妹校の締結を模索。学校独自で姉妹校を探し締結に至る。1999 年には「第1回国際フォーラム」を開催し、各校の姉妹校と交流も深いものとし現在も継続している。(2023 年度現在、世界 26 校の姉妹校を有している)
④	長期(1年)交換留学先として姉妹校締結を行った。
⑤	・旅行取扱は昔からお付き合いのある旅行会社 ・当時の担当者が現地コーディネーターと関りが深く、当時開拓して現在に至る。 →今は当時のメンバーも引退している。

(1) 姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道外・豪州市場の成功事例調査】

豪州との姉妹校提携及び国際交流のアンケート調査

①A高等学校 ②B高等学校 ③C高等学校
④D高等学校 ⑤E高等学校

【学校交流についての事例】

2. 豪州の学校との姉妹校提携を締結した目的や、メリット・デメリットについて

①	メリット> ①確実な研修先の確保 ②費用を抑える(日本の旅行社・留学エージェントを通さず中間マージンカット) デメリット> ①職員の業務的負担増加 ②現地からの要望にNOと言えなくなるケースもある
②	目的:学校同士が頻繁に交流をはかり、グローバルな教育活動を実施するため。 メリット> ①「姉妹校」への留学や、「姉妹校」からの留学生受け入れは、生徒・保護者にとって安心材料になっている。 ②定期的な交流があるため、次年度へ問題点を改善しやすい。 ③先方の校長先生や担当先生に何度もお会いできているので、コミュニケーションがとりやすい。 デメリット> 特に思い浮かびません。
③	メリット> ①グローバル人材の育成を学校方針に掲げているため、それに見合った学びの環境を整備しやすい。 ②定期的な交流(オンライン・リアル)が可能で、生徒の学びの機会が増えている。現地訪問の計画も容易。 ③複数の姉妹校(提携校)を持つことで、学校のブランド戦略が叶っている。(差別化) ④独自の行事、イベントなどの企画可能となっている。 デメリット> ①業者に依頼するのとは違い、自校の要望や都合を一方的にお願いすることが難しい時がある。(言いにくい) ②日本で受け入れる際、姉妹校(提携校)だからこそ、それなりの準備が必要で時間や金銭的負担も生じる。(お互い様ですが)
④	目的としては、語学(英語)長期留学先として姉妹校締結を行った。
⑤	メリット> 同じ学校に訪問出来て安心感がある 何年か前は転々としていた時期もあり デメリット> なし

(1) 姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道外・豪州市場の成功事例調査】

豪州との姉妹校提携及び国際交流のアンケート調査

①A高等学校 ②B高等学校 ③C高等学校
④D高等学校 ⑤E高等学校

【学校交流についての事例】

3. 姉妹校との学校交流との学校交流(オンライン含む)の実績について

①	(例)夏期の短期研修、Team1のターム留学
②	・ターム留学:2013年度より開始。初年度は3名、以降毎年2名。(コロナ禍除く)開始当初は、ホストファミリーを姉妹校から募っていたが、ここ2年は、業者さんを通して探している。(ホストを見つけるのが困難なため)様々なコースの中で、姉妹校コースが1番人気。 ・日本への修学旅行(10名前後來校、本校には2, 3日訪問)と2週間の留学生受け入れ(人数は2~5名)を隔年で実施(いずれもコロナ禍除く)(本校HPで紹介記事あり) ・オンライン学校交流:2020年~2022年まで、3年間実施 *毎年、数名の生徒を募り、お互いのキャンパスのおすすめスポットや、文化の紹介を行った。2022年度は参加した生徒に、内容や日程などを全て委ねた。(本校HPで紹介記事あり)
③	・令和5年5月12日~5月21日 グローバル育成研修(76名渡航)ホームステイなど ・令和5年7月31日~8月4日 グローバルスタディプログラム(オンライン)各国の姉妹校から探究やSDGSなど様々な研究発表を実施 ・令和5年8月31日~9月1日 国際フォーラム(海外各地より30名訪日)研究発表など
④	ここ10年以上、実際の交流は行っておりません。
⑤	2023年度:25名の生徒が参加 2022年度は20名の生徒が参加 コロナ期間においては帰国後のオンライン交流はしていた。出発前はしていない。

4. 学校交流にあたって誰がどのような調整をしたか(学校間、旅行会社、行政等)について

①	運営職員のコネクション(詳細不明)
②	姉妹校との学校交流は、基本的には、本校担当教員と現地の担当の先生(日本語を教えている日本人の先生)とのやりとりで実施。ターム留学の際、チケット発券などの作業には業者さんに入っている。
③	・学校交流は、学校間で独自に進めている。 ・ホームステイについては国によって手配方法が異なり、相手校が独自に準備する、相手校が好意にしている現地コーディネータを通して行う、日本の旅行会社で手配を行うなど様々で、現地での移動交通や食事なども同様。 ・最初のコンタクトは校長同士、または本部である龍澤学館が行い、その後は担当教員に下ろし進行する。
④	ここ10年以上、実際の交流は行っておりません。
⑤	昔から付き合いのある旅行会社が仲介役

(1) 姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道外・豪州市場の成功事例調査】

豪州との姉妹校提携及び国際交流のアンケート調査

①A高等学校 ②B高等学校 ③C高等学校
④D高等学校 ⑤E高等学校

【学校交流についての事例】

5. 豪州の学校との姉妹校提携に基づく学校交流による成果と課題、そして今後の継続についての有無をお聞かせください。また、姉妹校提携を新たに検討する場合どちらに相談しますか。

- | | |
|---|--|
| ① | リブランディング1期生のため現状継続予定。変更の予定なし。 |
| ② | <p>成果:中2のオーストラリア修学旅行にて、姉妹校訪問も実施できているので、大きな成果と言える。生徒や保護者も、オーストラリアやブリスベンという土地に親近感を抱いている。</p> <p>課題:上記のように、業者さんが入っていないやりとりが多く、教員の負担が多くなっているが、姉妹校との交流の今後の継続は決定事項。</p> <p>今後の姉妹校提携について:国際教育部→管理職→理事会という流れ。</p> |
| ③ | <ul style="list-style-type: none"> ・異文化理解、グローバル人材育成、個々の成長やチャレンジ精神など様々な良い影響をもたらしているため、今後も継続して交流に取り組んで行く。 ・共同作業(研究や研究発表など)により、語学力向上やコミュニケーション能力の向上につながっている。 ・新規に姉妹校提携の動きがあるとすれば、今後も学校で独自に行っていくつもり。(今までの知見があるため) |
| ④ | ここ10年以上交流を行っておらず、成果、課題共に記述できることはございません。 |
| ⑤ | <p>このままの関係性で継続希望。</p> <p>成果:卒業してから現地へ再度訪問する生徒もいる。</p> <p>課題:無し。新たな提携は望まない</p> |

6. 学校交流後の動向や影響について

- | | |
|---|--|
| ① | 現在留学の最中のため効果測定前となります。 |
| ② | 姉妹校タム留学は最長で10年行っており、留学を経験した卒業生が、大学や大学院で再びオーストラリア(ブリスベン)に渡り勉学に励んでいる。本人が得たことを現地の方々や本校の後輩に還元できるよう励んでいる様子。この春休み中、希望者約40名がオーストラリアへ研修に行くが、姉妹校訪問の際、9年前留学していたOGが現地にいるので案内に参加してくれることになっている。 |
| ③ | <ul style="list-style-type: none"> ・昨今の円安や物価高、旅行代金の高騰が足枷になっている。しかしながら、オンラインとリアルでは生徒が感じることに大きな差が出るため、リアルでの交流を続けていきたい。 ・ホームステイの受け入れ先が減ってきており、以前のような1名1家庭の対応が難しくなっている。学校側からすると複数の生徒が同じ家庭に入るよりは、少人数での体験が活きてくると考えている。 |
| ④ | ここ10年以上交流を行っておらず、成果、課題共に記述できることはございません。 |
| ⑤ | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒のモチベーションUP ・生徒の人生を変えるきっかけづくりになっている ・帰国後の生活態度が変わった生徒も複数いる |

(1) 姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道外・豪州市場の成功事例調査】

豪州との姉妹校提携及び国際交流のアンケート調査

①A高等学校 ②B高等学校 ③C高等学校
④D高等学校 ⑤E高等学校

【学校交流についての事例】

7. 姉妹校提携にあたっての予算、かかった費用について

①	詳細不明
②	当時携わった教員、校長が既に退職しているため、具体的な予算や費用に関しては不明。姉妹校締結のため、本校より2名が訪豪しているので、2名分の滞在費＋航空券のみだと思われる。
③	・日本から海外の姉妹校への訪問に関しては、個人負担が8割程度で残り2割が学校で予算を構えている。(多人数での渡航の場合) ・年に数回、少人数(2名程度)の海外訪問が発生する場合があるが、その際は全額学校で負担していることが多い。(式典などの参加要請) ・訪日の際は、食事や学校交流にかかわる費用を日本の学校で負担することが多い。
④	ここ10年以上交流を行っておらず、成果、課題共に記述できることはございません。
⑤	50万円台前半程度の旅行代金がかかっている。

(1) 姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道外・豪州市場の成功事例調査】

北海道外・豪州市場の成功事例調査の総括

本調査は、豪州の学校と姉妹校提携を行っている道外の高等学校にアンケート調査を行い、交流の詳細と継続的に交流を行うメリットデメリット、交流を継続する中での課題や影響などをお答えいただくことで、深耕調査と位置づけし実施している。

調査対象について

本調査では、豪州の学校姉妹提携を行っている高等学校5校に対し、アンケートを実施している。対象となった学校はいずれも私立であり、国際的な人材を育てるというカリキュラムに重きを置いている学校となっている。

※成功事例と考えられる7～8校に調査回答依頼を行ったが、結果として5校から回答を頂いた。

※(参考)各学校の特徴

調査対象 道外5校の国際教育における特徴

① A高等学校

- ・国際コースを設置
- ・研修プログラムに各種の国際交流を用意。
研修、ターム留学、合宿：オーストラリア、ニュージーランド、カンボジア、フィリピン
修学旅行：アメリカ(サンフランシスコ/ボストン、ニューヨーク)
- ・修学旅行後2～4週間、研修プログラムに参加可能
アメリカ(サンフランシスコ)カナダ(トロント、バンクーバー)

② B高等学校

- ・国際進学クラスを設置
- ・姉妹校提携：オーストラリア、イギリス、ドイツ、ニュージーランド(ターム留学制度あり)

③ C高等学校

- ・国際Rコースを設置 留学プログラムあり
- ・姉妹校提携26校：オーストラリア、ベトナム、中国、マレーシア、韓国、ニュージーランド、タイ、カナダ、インドネシア、ロシア、台湾、フランス、アメリカ、セネガル、アルゼンチン、フィンランド、ベルギー、ノルウェー、シンガポール、イギリス
- ・教育目標(一部抜粋)
「21世紀のグローバル社会を見据えて、国際理解教育を推進し、世界に通用する人間力を備えたグローバルリーダーを育成する」

④ D高等学校

- ・教育目標(一部抜粋)
「国際化社会に対応できる国際感覚と、平和、友好、協調の精神を堅持できる人格を育成する」

⑤ E高等学校

- ・国際理解教育のプログラムあり
(中学校)オーストラリア語学研修 (高等学校)イギリス(ケンブリッジ、ウェールズ)語学研修

(1) 姉妹校提携の現状を明らかにする調査

【北海道外・豪州市場の成功事例調査】

北海道外・豪州市場の成功事例調査の総括(つづき)

姉妹校提携のメリット、デメリット

調査対象の特徴にもあるとおり、学校として国際教育に重きを置くカリキュラムの構築のため、他の地域も含めた姉妹校提携を行っている背景の中、豪州の学校との交流を行っている。

長く姉妹校提携を行っている先への派遣は、子女を送り出す保護者にとって大きな安心材料になる。さらには学校自体のブランド戦略や他校との差別化を模索するうえで、様々な国や地域と姉妹校提携ネットワークを構築するといったことにメリットを感じている学校が多い。

一方で、これらの取組のほとんどは学校自体で提携を進めているケースがほとんどであるため、学校交流の内容などの決定プロセスの中で、提携先との調整に苦慮しているという意見もある。(P34 2回答より)

学校交流の実施方法や回答から見える工夫

学校交流の内容は事前にオンライン交流を行い、短期の留学につなげていくというスタイルが多く採用されている。双方の生徒・学生にとって、事前交流がある先に派遣(あるいは受け入れ)という流れは学びの機会が増えるメリットがある。(P35 3、P34 2③回答より)

また、短期留学やホームステイといった活動を行う際には、旅行会社やコーディネーターを業者に依頼することもある一方、すでに実施ノウハウがあることや、コスト的な問題などもあり、中間マージンをカットするという回答もある。(P35 4②、P34 2①回答より)

先進事例としての交流の在り方

- 学校としての理念や方針と姉妹校提携／国際交流という手法が合致していること
- 教職員に一定以上のノウハウがあり、知見を積み上げている。
- オンラインでの実施も含め、交流の在り方や密度を効率的に進化させている。

いずれの学校においても、より良い教育プログラムの構築に向けて取り組んでいる中で、学校として様々な工夫を施し、取り組みを進化させてきたことが今回の調査で分かった。

一方で、知見のある職員や指針を支えていた管理者が退職するといったケースや、姉妹校提携を行っても、実際の交流を行わない「名ばかり提携」といったケースなども発生している。

昨今の円安や物価高による旅行代金の高騰などを危惧する声もあり、先進事例であるこれらの学校でも規模縮小などを行うといった課題も出てきている。

(P35 4、P37 7②、P36 6③、④回答より)



（２）豪州市場との姉妹校提携及び 訪日教育旅行の誘致が可能であるかの調査

【豪州現地アンケート調査】

(2) 豪州市場との姉妹校提携及び訪日教育旅行の誘致が可能であるかの調査

【豪州現地アンケート調査】

調査の概要

1. 調査の目的

豪州から北海道への教育旅行及び学校交流を拡大していくことを目的として、日本からの直行便が就航している都市の学校を対象として、国際的な学校交流に係る実績や今後の意向、姉妹校提携や学校交流の相手方の選定にあたって重視することを調査する。

調査結果を受け、特に日本の高等学校との姉妹校連携に意欲のある学校を抽出する。

2. 調査の対象

調査対象の選定については以下の手順にて実施している。

豪州から日本への直行便のある州・都市を選出し該当地域の学校をリスト化し、メール等でアンケートの協力を発信。さらに現地協力会社より協力依頼を個別に行うことで、93校を選出。

●該当地域における学校数。

NSW(ニューサウスウェールズ州)	300校	
VIC(ビクトリア州)	157校	
QLD(クイーンズランド州)	261校	
WA(ウェスタンオーストラリア州)	88校	
ACT(オーストラリアキャピタルテリトリー)	30校	
SA(サウスオーストラリア州) & NT(ノーザンテリトリー州)	73校	合計
TAS(タスマニア州)	39校	948校

●調査実施した学校数 93校

3. 調査内容と方法

・調査内容

学校担当者基本情報／連絡先、のほか、学校交流、姉妹校提携の実績、日本との学校交流についての意向、実現できない理由や希望する内容など。

※具体的な設問内容については次ページを参照

・調査方法

- ①WEBアンケートを設置
- ②対象948校に一斉メール発信
- ③個別に協力依頼連絡(メールおよび電話)
- ④回答について不明な点があった学校に対しての追加ヒアリングの実施



(2) 豪州市場との姉妹校提携及び訪日教育旅行の誘致が可能であるかの調査

【豪州現地アンケート調査】

現地ヒアリング調査

■調査内容

調査項目		調査内容
学校交流に関して	海外学校との交流実績の有無	(ありの場合) ・相手国(地域) ・受入人数 ・派遣人数
	海外学校との交流希望の有無	・希望する／希望しない／わからない ・交流を希望する国・地域 ・実施可能な人数 ・実施可能な時期 ・相手校選定にあたり重視する項目 ・希望する交流懸念点 ・日本との学校交流希望有無 ・交流を通して、学ばせたい内容 ・希望しない場合 その理由 ・わからない場合 懸念点、不明点
姉妹校提携に関して	姉妹校提携の有無	・姉妹校提携の有無 ・姉妹校との交流実績の有無
	姉妹校との学校交流予定の有無	・今後の交流予定の有無 ・相手国(地域) ・受入予定人数 ・派遣予定人数
	海外学校との姉妹校提携希望の有無	・今後の交流希望の有無 ・相手国(地域) ・参加人数 ・希望する事項 ・指定校選定時に重視するポイント ・姉妹校提携にあたっての課題、懸念点 ・希望しない場合 その理由 ・わからない場合 懸念点、不明点
	現地調査のための招聘への関心度	・関心がある／関心がない

(2) 豪州市場との姉妹校提携及び 訪日教育旅行の誘致が可能であるかの調査

【豪州現地アンケート調査】

有効回答校数＝未回答を除いた回答数

(2) 豪州市場との姉妹校提携及び訪日教育旅行の誘致が可能であるかの調査

【豪州現地アンケート調査】

調査結果

問1.海外学校との交流実績がある場合、以下の欄に実施した時期、交流した学校の国・地域、受入人数や交流した内容等を可能な範囲で記載願います。

■問1-1.交流した国について[有効回答校数:70]（複数回答可）

日本	69	99%
アメリカ	2	3%
カナダ	1	1%
南アフリカ	1	1%
ニュージーランド	1	1%
イギリス	1	1%

イタリア	1	1%
フランス	1	1%
スペイン	1	1%
フィンランド	1	1%
中国	1	1%
台湾	1	1%
韓国	1	1%

未回答	23	25%
-----	----	-----

■問1-2.交流地域について(日本国内のみ)[有効回答校数:64]（複数回答可）

東京	15	21%
大阪	9	13%
埼玉	9	13%
神奈川	7	10%
静岡	5	7%
広島	5	7%
千葉	4	6%
茨城	3	4%
北海道	3	4%
岩手	3	4%
岐阜	3	4%
愛知	2	3%
山口	2	3%
九州	2	3%
高知	2	3%
福井	2	3%
長野	2	3%

沖縄	1	1%
群馬	1	1%
京都	1	1%
山梨	1	1%
鹿児島	1	1%
秋田	1	1%
長崎	1	1%
奈良	1	1%
福岡	1	1%
栃木	1	1%
兵庫	1	1%

未回答	29	31%
-----	----	-----

(2) 豪州市場との姉妹校提携及び訪日教育旅行の誘致が可能であるかの調査

【豪州現地アンケート調査】

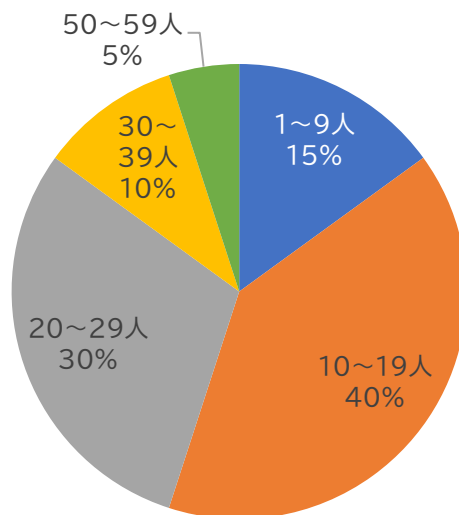
調査結果

(続き)

問1.海外学校との交流実績がある場合、以下の欄に実施した時期、交流した学校の国・地域、受入人数や交流した内容等を可能な範囲で記載願います。

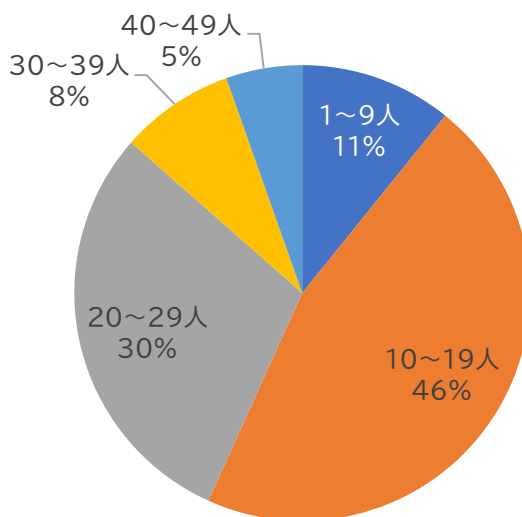
■問1-3.交流受け入れ人数[有効回答校数:20]

1～9人	3
10～19人	8
20～29人	6
30～39人	2
40～49人	0
50～59人	1
未回答	73



■問1-4.交流派遣人数[有効回答校数:37]

1～9人	4
10～19人	17
20～29人	11
30～39人	3
40～49人	2
未回答	56



問1の結果によって、

- ・ヒアリング対象に対して圧倒的に日本との交流が多いことがわかった。
- ・日本国内交流地域としては東京、大阪の他は関東圏に派遣が行われていることがわかった。
- ・受け入れ、派遣人数に関しては、共に10～19人、20～29人がボリュームゾーンとなっていた。

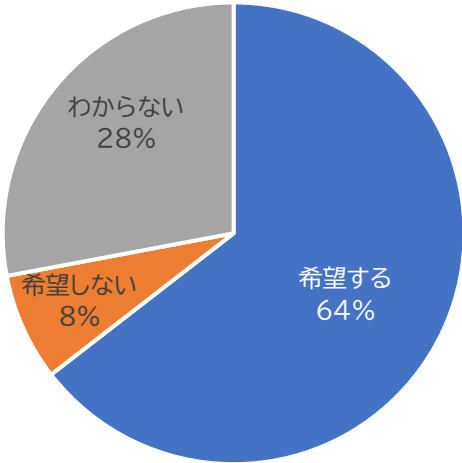
(2) 豪州市場との姉妹校提携及び訪日教育旅行の誘致が可能であるかの調査

【豪州現地アンケート調査】

調査結果

問2. 今後、海外との学校交流を希望しますか。実施を希望する場合は「希望する」、希望しない場合は「希望しない」、または「わからない」のいずれかに○を付けてください。
[有効回答校数: 93]

希望する	60
希望しない	7
わからない	26



問3. 学校交流の実施を希望する「国・地域」「実施可能な人数」「実施可能な時期」等がございましたら以下の欄に記載願います。

■問3-1. 交流を希望する国 [有効回答校数: 47] (複数回答可)

日本	47	72%
フランス	4	6%
イタリア	3	5%
ニューカレドニア	2	3%
ドイツ	2	3%
中国	2	3%

シンガポール	1	2%
スペイン	1	2%
台湾	1	2%
インドネシア	1	2%
韓国	1	2%
未回答	46	49%

■問3-2. 交流地域(日本国内のみ) [有効回答校数: 5] (複数回答可)

東京	1	20%
埼玉	1	20%
九州	1	20%
徳島	1	20%
北海道	1	20%
未回答	88	49%

(2) 豪州市場との姉妹校提携及び訪日教育旅行の誘致が可能であるかの調査

【豪州現地アンケート調査】

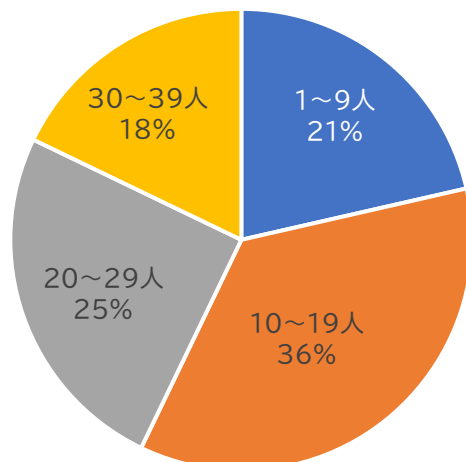
調査結果

(続き)

問3.学校交流の実施を希望する「国・地域」「実施可能人数」「実施可能な時期」等がございましたら以下の欄に記載願います。

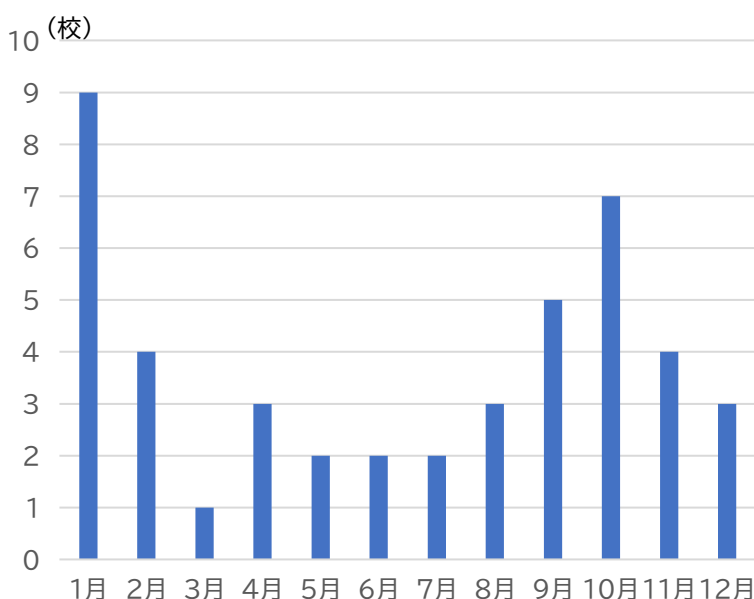
■問3-3.実施可能人数[有効回答校数:28]

1～9人	6
10～19人	10
20～29人	7
30～39人	5
未回答	65



■問3-4.実施可能な時期[有効回答校数:20]

1月	9
2月	4
3月	1
4月	3
5月	2
6月	2
7月	2
8月	3
9月	5
10月	7
11月	4
12月	3
未回答	73



問3の結果によって、

- ・交流を希望する国として、日本は7割を越える支持がありその他ではヨーロッパが人気であった。
- ・日本国内交流地域としては回答数が少なかったものの、全国に分布していることがわかった。
- ・受け入れ人数に関しては、10～19人が最多回答であった。
- ・月別交流派遣人数では、オーストラリアのホリデーシーズンに盛んであることがわかった。

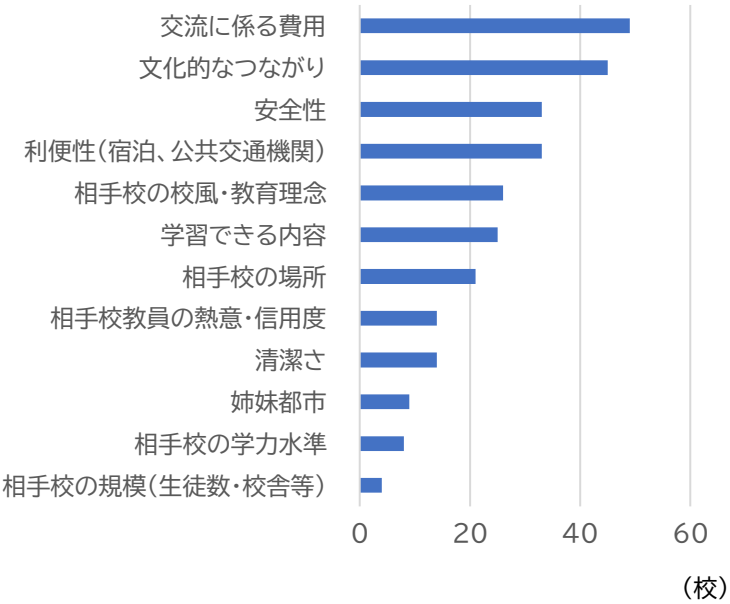
(2) 豪州市場との姉妹校提携及び訪日教育旅行の誘致が可能であるかの調査

【豪州現地アンケート調査】

調査結果

問4.学校交流の対象校を選定する際に、重視する項目を以下の選択肢からお選びください。
(複数回答可) [有効回答校数:61]

交流に係る費用	49
文化的なつながり	45
安全性	33
利便性(宿泊、公共交通機関)	33
相手校の校風・教育理念	26
学習できる内容	25
相手校の場所	21
相手校教員の熱意・信用度	14
清潔さ	14
姉妹都市	9
相手校の学力水準	8
相手校の規模(生徒数・校舎等)	4
未回答	32



(2) 豪州市場との姉妹校提携及び訪日教育旅行の誘致が可能であるかの調査

【豪州現地アンケート調査】

調査結果

問5. 学校交流で希望する交流内容や、交流にあたっての課題・懸念点がありましたら以下の欄に記載願います。（複数回答可）

■問5-1.希望する交流内容[有効回答校数:22]

文化体験	7
ホームステイ	3
学生生活	3
生活体験	3
短期研修	2

言語交流	2
地域交流	2
デジタルコミュニケーション	1
交換留学	1
その他	9

文化体験について

- ・ 自然豊かな北海道で、学術的でありながら精神的、文化的な真の体験ができる交流プログラムを構築したいと考えています。
- ・ 日本の典型的、伝統的な生徒の学生生活を当校の生徒に紹介したいです。オーストラリアと日本の文化、歴史、習慣を身をもって体験してもらいたいです。

ホームステイについて

- ・ 学生に日本の学校生活、ホームステイを体験したいと考えています。

生活体験について

- ・ 最終学年の生徒たちは、教育目的で日本に行ってホストファミリーと一緒に滞在する機会をとて楽しみにしています。彼らは、3、6、または 12 か月間、日本の高校に通うことを望んでいます。

言語交流について

- ・ 私たちは日本語プログラムに力を入れており、生徒たちがオーストラリアの多文化的な面を理解することもできるため、日本人学生との交流を歓迎します。

デジタルコミュニケーションについて

- ・ 私たちには姉妹校がありますが、非常に古風な学校なので、より高度な技術を持った学校と交流して、学生同士が交流の前後にデジタルでコミュニケーションできるようにしたいと考えています。

(2) 豪州市場との姉妹校提携及び訪日教育旅行の誘致が可能であるかの調査

【豪州現地アンケート調査】

調査結果

(続き)

問5.学校交流で希望する交流内容や、交流にあたっての課題・懸念点がありましたら以下の欄に記載願います。(複数回答可)

■問5-2.課題、懸念点[有効回答校数:37/53] (複数回答可)

受け入れ先	15
コスト	5
サポート環境	3
スケジュール	3
リスク管理	2
生活環境	2

コミュニケーション	1
ビザ関連	1
プログラムの手配、調整	1
ライフスタイル	1
医療的問題	1
期間、スケジュール	1
書類手配	1

課題について

- 私たちは生徒たちに日本で本物の経験をしてもらいたいと思っていますが、教師が交換プログラムのすべての手配をするのは難しいです。学校を訪問し、同年代の生徒と交流できるのは貴重な経験です。私たちはホームステイ体験をととても大切にしていますが、生徒の個人的な安全にも細心の注意を払う必要があり、そのことがホームステイ体験を非常に困難にしています。
- プログラムの長さに応じて、学生は言語レベルに関して オーストラリア政府認定制度(CRICOS)の要件を満たす必要があります。学校時間外に生徒の世話をしてくれるホームステイプロバイダーと連絡を取る必要があります。
- 教育省(DoE)の管理要件があり、交流に係るリスク評価、データ収集、市議会との直接の交渉などが困難でした。書類の日本語翻訳にも困難を感じています。たとえば、児童保護に関する文書などです。

懸念点について

- ホームステイについて(学校の学生と一緒に滞在するのが理想的ですが、必須ではありません)。
- ホームステイ先を見つけるのが大変です。また、ブリスベンのカトリック教育では、これらのことを組織することが非常に困難になっています。
- 費用がかかるため、学校ベースの交換留学は10年以上行っていません。協議会ベースの方が手頃な価格だったので、宣伝しました。
- 人間関係を確立し維持することに尽力できる語学教師を常設していないことが問題でした。
- 学校として、この状況を変えたいと思っています。

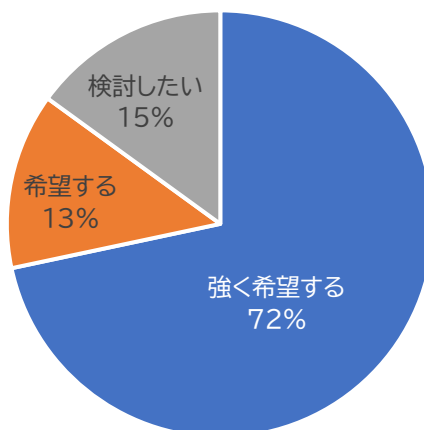
(2) 豪州市場との姉妹校提携及び訪日教育旅行の誘致が可能であるかの調査

【豪州現地アンケート調査】

調査結果

問6. 今後、日本との学校交流を希望するか、以下の選択肢からお選びください。「強く希望する」「希望する」「機会があれば検討しても良い」「希望しない」
 [有効回答校数60]

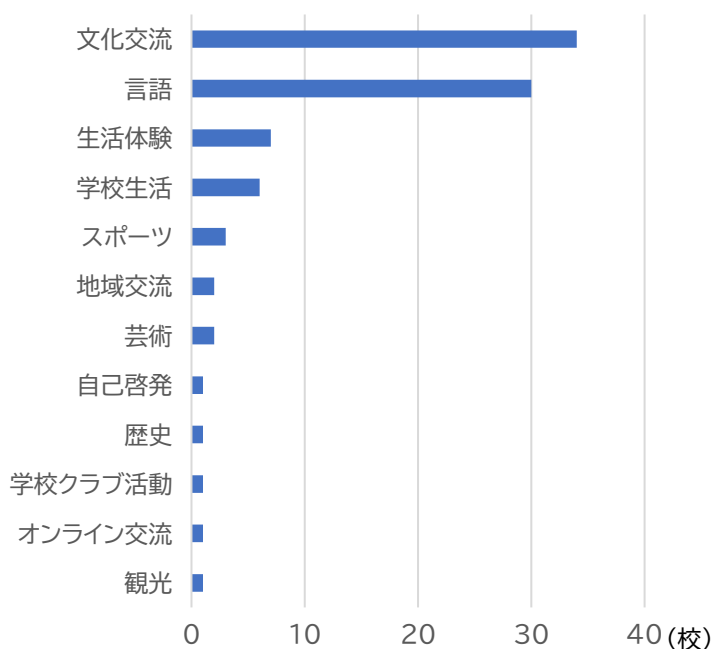
強く希望する	43
希望する	8
検討したい	9
未回答	33



問7. 海外の学校との交流を通して、生徒に学ばせたい学習内容は何ですか。

[有効回答校数:52] (複数回答可)

文化交流	34
言語	30
生活体験	7
学校生活	6
スポーツ	3
地域交流	2
芸術	2
自己啓発	1
歴史	1
学校クラブ活動	1
オンライン交流	1
観光	1
未回答	41



(2) 豪州市場との姉妹校提携及び訪日教育旅行の誘致が可能であるかの調査

【豪州現地アンケート調査】

調査結果

問8. 学校交流の実施を希望しない場合、その理由を以下の欄に記載願います。

※回答後、問10へお進みください。[有効回答校数: 7]

既存提携があるため	5
受け入れ先	2

既存提携があるため

- すでに姉妹校プログラムを締結しているため、これ以上増やす必要はありません。
- 御殿場西高等学校と強い絆があります。
- 私たちはすでに2校と姉妹校提携しており、毎年 7 月、8 月、10 月に姉妹校を迎え入れています。
- 私たちはすでに姉妹校と協定を結んでいます。

受け入れ先

- 私たちの学校はすでに日本語を学習言語に含めておらず、日本語以外での交流を重視する傾向があります。新型コロナウイルス感染症の発生後、経済的に厳しい現在の状況では、ホストファミリーを見つけることも非常に困難になっています。
- 私たちの主な問題は、大規模なグループ（生徒 20 ～ 30 人）を受け入れるホストファミリーを見つけることです。私たちは非常に小さな田舎の学校です。生徒の家族の多くは裕福ではなく、実際に経済的に苦労している人もいます。日本の学生と交流したら、もっと幸運が訪れることを期待しています。

(2) 豪州市場との姉妹校提携及び訪日教育旅行の誘致が可能であるかの調査

【豪州現地アンケート調査】

調査結果

問9.学校交流の実施を希望するかわからない場合、実施にあたっての懸念点や不明点などがございましたら以下の欄に記載願います。

※回答後、問10へお進みください。[有効回答校数:17]

受け入れ先	7
コスト	4
自校環境	2

書類	2
サポート環境	1
知識不足	1

懸念点について

- ・ 教育省の承認プロセス、学生の費用支払い能力。
- ・ 公立学校として、理事長などの承認なしにこれらの決定を下すことはできません。私立/独立学校よりもはるかに複雑です。
- ・ 提出書類の量も多く、ますます複雑になっています。
- ・ 私たちが抱えている最大の問題は、姉妹校のスタッフとの連絡を維持することです。オーストラリアとは異なり、日本の教師は数年で異動するため、姉妹校プログラムに精通し、窓口となる人をスタッフに一人置くことは困難です。また、姉妹校協定が継続しない理由の一つとして、日本人スタッフの拘束時間が挙げられます。私たちの姉妹校の校長は、時間の制約があるため、スタッフをプログラムに参加させるのは非常に難しいと述べました。
- ・ 興味はあるが、姉妹校,交換留学の進め方が分からない。
- ・ 私たちは田舎の小さな学校です。交換留学プログラムの実施に向けて全力を尽くしたいと思っていますが、受入れ規模は小さいです。

不明点について

- ・ 興味はあるが、姉妹校,交換留学の進め方が分からない。
- ・ 適切なホストファミリーを獲得する方法。
- ・ 教育省の承認プロセス、学生の費用支払い能力。
- ・ ホームステイ先や在学中のアクティビティを探す方法。

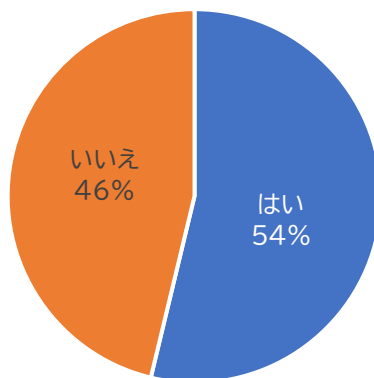
(2) 豪州市場との姉妹校提携及び訪日教育旅行の誘致が可能であるかの調査

【豪州現地アンケート調査】

調査結果

問10.海外学校と姉妹校提携がありますか。[有効回答校数:93]

はい	50
いいえ	43



問11.姉妹校との交流実績はありますか。実績がある場合、実施した時期、交流した学校の国・地域、受入人数や交流した内容等を可能な範囲で記載願います(問1で回答いただいた場合は、記載不要です。)

[有効回答校数/回答校数:0]

※問1において、日本との交流がほぼ100%との回答があった為、問11の結果記載なし。

問12.今後姉妹校との交流予定はありますか。予定がある場合、予定している時期や人数、交流内容を可能な範囲で記載願います。(複数回答可)

■問12-1.姉妹提携を予定している国[有効回答校数:26]

日本	20	67%
韓国	1	3%
スペイン	1	3%
ドイツ	1	3%
検討中	7	23%
未回答	65	68%

■問12-2.姉妹校提携を予定している地域(日本国内のみ)

[有効回答校数:25/95](複数回答可)

東京	4	16%
埼玉	2	8%
岩手	1	4%
神奈川	1	4%
岐阜	1	4%
京都	1	4%
群馬	1	4%
高知	1	4%

静岡	1	4%
千葉	1	4%
九州	1	4%
福岡	1	4%
北海道	1	4%
山梨	1	4%
検討中	7	28%
未回答	70	74%

(2) 豪州市場との姉妹校提携及び訪日教育旅行の誘致が可能であるかの調査

【豪州現地アンケート調査】

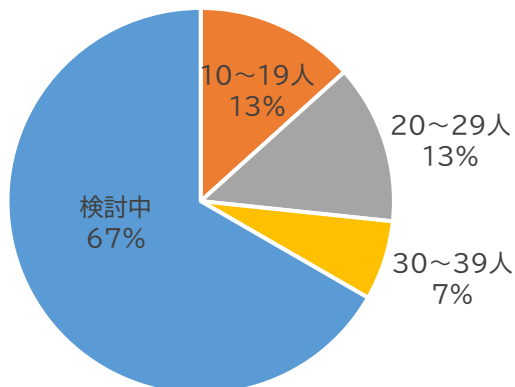
調査結果

(続き)

問12. 今後姉妹校との交流予定はありますか。予定がある場合、予定している時期や人数、交流内容を可能な範囲で記載願います。

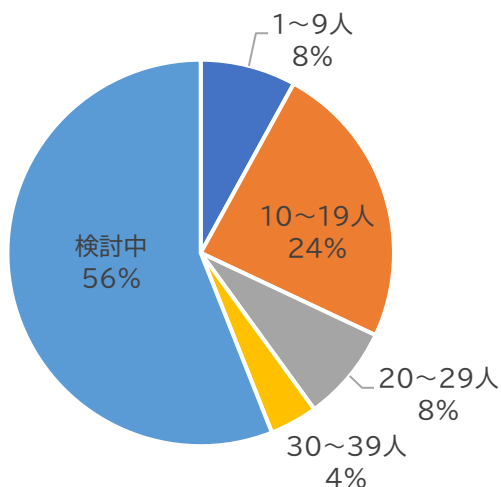
■問12-3. 受け入れ可能人数[有効回答校数:15]

1～9人	0
10～19人	2
20～29人	2
30～39人	1
検討中	10
未回答	78



■問12-4. 派遣可能人数[有効回答校数:25]

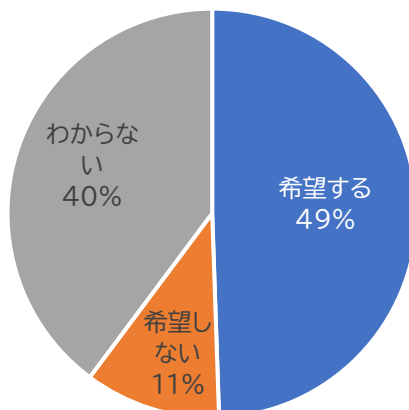
1～9人	2
10～19人	6
20～29人	2
30～39人	1
検討中	14
未回答	68



問13. 今後、海外学校との姉妹校提携を希望しますか。提携を希望する場合は「希望する」、希望しない場合は「希望しない」、または「わからない」のいずれかに○を付けてください。

[有効回答校数:93]

希望する	46
希望しない	10
わからない	37
未回答	41



(2) 豪州市場との姉妹校提携及び訪日教育旅行の誘致が可能であるかの調査

【豪州現地アンケート調査】

調査結果

問14. 姉妹校提携を希望する「国・地域」等、特に希望する事項がございましたら以下の欄に記載願います。

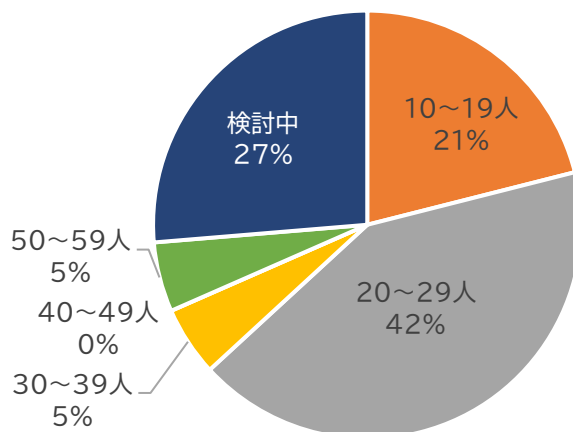
■問14-1. 姉妹校提携の希望先の所在国[有効回答校数:46] (複数回答可)

日本	33	62%
フランス	3	6%
インドネシア	2	4%
台湾	2	4%
中国	1	2%
韓国	1	2%
ドイツ	1	2%

イタリア	1	2%
スペイン	1	2%
シンガポール	1	2%
ニューカレドニア	1	2%
スイス	1	2%
検討中	5	9%
未回答	53	57%

■問14-2. 参加人数[有効回答校数:19]

1～9人	0
10～19人	4
20～29人	8
30～39人	1
40～49人	0
50～59人	1
検討中	5
未回答	74



(2) 豪州市場との姉妹校提携及び訪日教育旅行の誘致が可能であるかの調査

【豪州現地アンケート調査】

調査結果

(続き)

問14.姉妹校提携を希望する「国・地域」等、特に希望する事項がございましたら以下の欄に記載願います。

■問14-3.希望事項[有効回答校数:30]

(複数回答可) ※記述回答の重複は1つのみ掲載

時期	12
学年指定	5
プログラム	4

教育言語	3
性別指定	2
その他	4

希望事項

- ・ 希望時期は、7月、8月(日本の生徒がオーストラリアを訪問)、12月(オーストラリアの生徒が日本を訪問)
- ・ 自校と同じような、学校(女子高)と提携したいと思っています。
- ・ 日本の中学生(オーストラリアで言う7～9年生)と交流したいと思っています。
- ・ 日本語をLOTE科目(英語以外の科目)として提供する日本の学校。(インターナショナルスクールなど)
- ・ 文化交流や留学の機会、プロフェッショナル育成などを行いたいと考えています。
- ・ 北京語を話す高校(できれば私立校)
- ・ 優先事項は、我々の教えている日本語を使用できる環境であることです。
- ・ Zoomを利用した言語交換授業、ペンパルエクスチェンジ(文通)レッスン、日本の学校の受け入れ、日本への旅行などを喜んで行います。

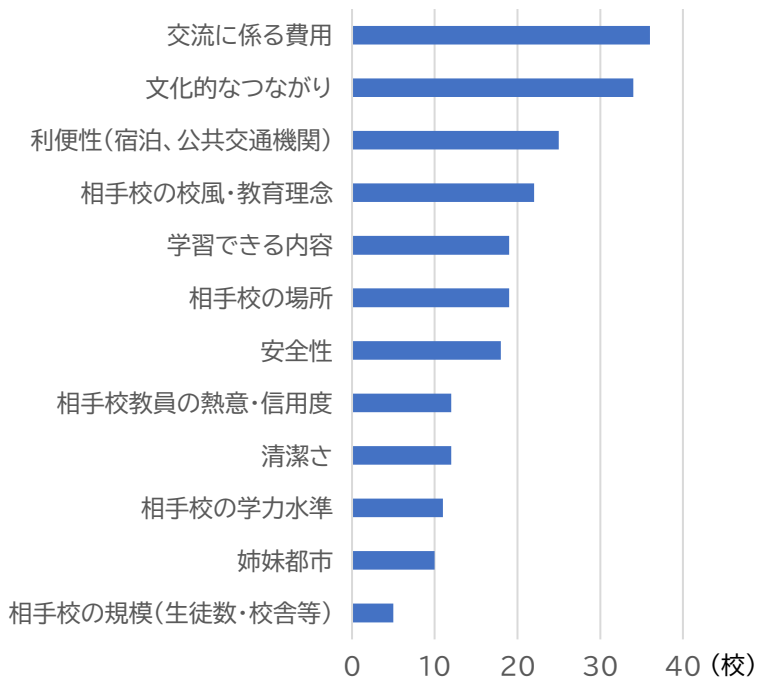
(2) 豪州市場との姉妹校提携及び訪日教育旅行の誘致が可能であるかの調査

【豪州現地アンケート調査】

調査結果

問15. 姉妹校提携の対象校を選定する際に、重視する項目を以下の選択肢からお選びください。
 [有効回答校数: 46/ 93] (複数回答可)

交流に係る費用	36
文化的なつながり	34
利便性(宿泊、公共交通機関)	25
相手校の校風・教育理念	22
学習できる内容	19
相手校の場所	19
安全性	18
相手校教員の熱意・信用度	12
清潔さ	12
相手校の学力水準	11
姉妹都市	10
相手校の規模(生徒数・校舎等)	5
未回答	47



(2) 豪州市場との姉妹校提携及び訪日教育旅行の誘致が可能であるかの調査

【豪州現地アンケート調査】

調査結果

問16. 姉妹校提携にあたっての課題・懸念点がありましたら以下の欄に記載願います。

[有効回答校数:32] ※記述回答の重複は1つのみ掲載

受け入れ先	7	書類	1
自校環境	5	リスク管理	1
サポート環境	5	機会	1
コスト	2	異文化環境	1
時差	1	その他	8

課題について

- ・ インターネットを使った交流のタイミングは、こちらと他の国の時間割がいつもうまく合わず、何度も計画するのが難しい。
- ・ 学校側が直前にプログラムを組むこともあるので、どんなことをするのか、まったくわからないこともあります。私たちが何をするにしても、前もって告知があれば生徒の準備に役立ちます。
- ・ 提携できる学校が見つからない。多くの学校はすでに提携を結んでいるようです。
- ・ 教師が多忙なため、コミュニケーションがしばしば散発的であること。
- ・ 教師が退職しても、プログラムが継続されるよう、後継者育成計画を立てること。両校に確実に利益をもたらすこと。
- ・ プログラムを確立するための長期的なスタッフの不足。

懸念点について

- ・ 日本の学校に私たちの生徒を受け入れてもらうのが難しい。
- ・ クイーンズランド州教育省が要求する制限と、難しい書類作成。
- ・ 航空運賃、宿泊費、公共交通機関などの費用。
- ・ 姉妹校担当の教職員との連絡の維持。
- ・ タイミング、返事が遅い、クイーンズランドの教育機関はズームを使うのが難しい点など。

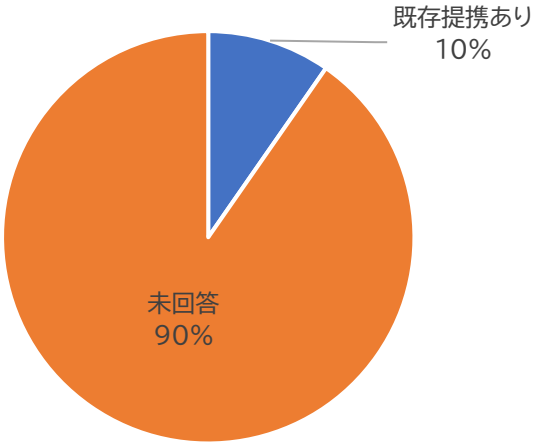
(2) 豪州市場との姉妹校提携及び訪日教育旅行の誘致が可能であるかの調査

【豪州現地アンケート調査】

調査結果

問17.姉妹校提携を希望しない場合、その理由を以下の欄に記載願います。
[有効回答校数:9]

既存提携あり	9
未回答	84



問18.姉妹校提携を希望するかわからない場合、提携にあたっての懸念点や不明点などがございましたら以下の欄に記載願います。[有効回答校数:7]

規模	5
自校環境	3
ガイドライン	3
受け入れ先	2
プログラム	2
関係性	1

継続性	1
言語	1
交流先	1
コスト	1
時差	1
プロセス	1
その他	6

懸念点について

- ・ 非常に興味はあるが、厳格な省のガイドラインがあるので、それに従わなければならない。
- ・ コスト。多くの場合、姉妹校提携すると、学校はプログラムを運営する余裕がなくなる。
- ・ 日本の学校とのつながりを見つけ、そのコミュニケーションを維持することは、学校暦年の時間的制約(カリキュラムの実施、評価、計画、文書化や専門的な学習を通じた教育省の方針とプロセスの遵守など)があるため、困難である。また、近年、教員の離職率が高いため、新しい学校の指導者や新しい教員が、姉妹校との一貫した関係を維持することが困難。

不明点について

- ・ 学校がこのようなプログラムに参加する意思があるかどうか分からない。

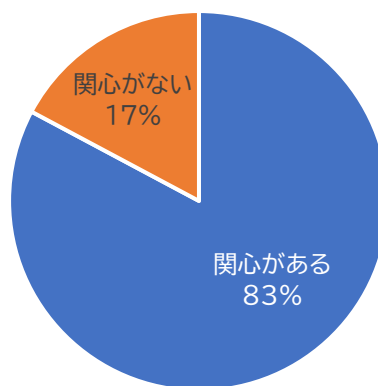
(2) 豪州市場との姉妹校提携及び訪日教育旅行の誘致が可能であるかの調査

【豪州現地アンケート調査】

調査結果

問19.北海道より現地調査のための招請を要請された場合、関心の有無について以下の欄に記載願います。[有効回答校数:93]

関心がある	77
関心がない	16



豪州現地アンケート調査の総括

豪州における現状調査

本調査は豪州からの教育旅行の拡大を目的とし、日本からの直行便地域を中心に受託事業者現地グループ会社による情報発信を行い、日本への教育旅行に興味関心を寄せる豪州の学校に協力要請を行った結果、93校から回答があった。

回答者属性について

本調査の回答者属性はそのほとんどが日本との交流を行ったことのある学校となっている。日本国内で交流した地域は「東京・大阪・埼玉・神奈川」といった関東圏に集中している。一方で北海道の学校との交流は全体の4%にとどまっている。(P44 問1-2回答より)

交流規模・実施時期・重視する内容

一度の交流で何人程度の交流規模の実施が可能かという設問においては、10～30名という規模、実施時期は豪州の夏のスクールホリデーのシーズンである1月に希望する声が多い。日本は言語や生活習慣が豪州と明確に違うことから、文化交流や言語学習を望む声が多く現状支持されている。姉妹校提携先としても日本の学校を選びたいという回答が6割となっている。(P47 問3-3、問3-4、P51 問7、P56 問14-1回答より)

実施における課題

交流における費用、豪州の教育省における承認プロセスの煩雑さや姉妹校提携を維持するための業務量、人員不足など、解決すべき課題は多くある。

特に、日本でのホームステイなどは教師が交換プログラム手配を行うことの難しさがあるとコメントが多く出ている。

オンライン交流を行うことについても、生徒同士の時間的制約があるため、実施することが難しいという声がある。(P50 問5-2、P53 問9、P59 問16、P60 問18回答より)

豪州における学校交流の意向

課題が多くある一方、北海道へ現地調査の招請を依頼した場合の関心有無を何う設問においては、8割以上が「関心がある」という回答だった。(P61 問19回答より)

上記より、豪州における海外交流は日本における運営と同様の課題を抱えているものの、日本への生徒・児童の派遣などにはポジティブな印象を持っていると言える。



(3) 豪州教育旅行関係者等による 北海道現地調査

(3) 豪州教育旅行関係者等による北海道現地調査

【教育旅行関係者等の招請】

招請の概要

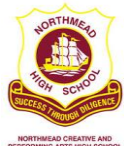
事業内で実施するアンケート調査をもとに、訪日教育旅行や姉妹校締結への意欲が特に高い学校を協議の上、選定。4校より4名を招請した。

※豪州におけるシニアセカンダリースクールなど日本の高等学校に相当する学年を対象とする学校から選定。

■実施概要

目的	➤ 学校視察 ➤ 各種体験 ➤ 意見交換会
招請対象	セント ピーターズ アングリカン カレッジ TAKAKO HOLSTEGGE(日本語教師) バーウッド女子高等学校 EDWARD CHARLES KENT(外国語主任教師) ノースミードクリエイティブアンドパフォーミングアーツ高校 CONSTANTINA KARAYANNIS(副校長) チェスターヒル高校 JENNY C SOBREVEGA(ラーニング&サポート主任,日本語教師) 計4名
招請時期	2024年1月22日(月)～1月26日(金)
エリア	札幌・白老・苫小牧・岩見沢・深川・妹背牛・旭川

■招請校

 【St Peter's Anglican College Broulee】 (セント ピーターズ アングリカン カレッジ) 東京明星学園、群馬の高校、俱知安の小中学校、九州久留米高校など交換留学やオンライン交流をしている。日本語とフランス語をプレスクール時から学習し、生徒は国際的な感覚を身につけている。	 【Burwood Girls High School】 (バーウッド女子高等学校) イタリア、フランス、スペイン、フィンランド、アメリカ、日本(九州)、ドイツなど交換留学している。日本語を勉強している生徒と一緒に授業やアクティビティなどともに学ぶ。また、修学旅行で九州の学校へ行って書道などを学んだ。
 【Northmead Creative and performing Arts High School】 (ノースミードクリエイティブアンドパフォーミングアーツ高校) 20年以上にわたり、日本の学生を毎年20名程度受け入れている。文化が異なる国について学び、言語スキルを学ぶ機会やホームステイ、文化史跡を訪問など行っている。	 【Chester Hill High School】 (チェスターヒル高校) 名古屋に姉妹校提携を結んでいたが、人員不足等で2016年以降辞めていた。本校で日本語を学ぶ生徒が多数いて、今後姉妹校連携や交換留学を進めていきたい。

■Wi-Fi

招請者対象に招請期間使用できるよう事前にJTB AustraliaがWi-Fi 4台を用意した。
(1人1台 計4台)

(3) 豪州教育旅行関係者等による北海道現地調査

【教育旅行関係者等の招請】

招請の行程

■実施時期:1月22日～1月26日

	到着	出発	交通	行 程	朝	昼	夕
【1日目】 1月22日 (月)		22:05	国際線	シドニー→羽田空港(QF25便)			
	5:55			羽田空港到着後、国内線へ移動			
		8:15	国内線	羽田空港→新千歳空港(JL505便)			
	9:50	10:40	専用車	新千歳空港 発			
	11:50	12:40	専用車	北海道神宮			
	13:00	13:50	専用車	【昼食】札幌中央卸売場外市場「北のグルメ亭」 ※海鮮丼又は焼き魚定食			
	14:45	16:30	専用車	エスコンフィールド視察	機 内	○	○
	17:10	17:40	専用車	ホテルチェックイン			
			地下鉄	※地下鉄乗車体験(新札幌→大通)			
	18:00	19:00	徒歩	狸小路商店街 ※ショッピング時間を想定			
	19:15	21:00	徒歩	【夕食】おたる亭すすきのビル店 ※和食 懇親会(運輸局様4名様 参加)			
			地下鉄	※地下鉄乗車体験(大通→新札幌)			
				【宿泊】札幌市内			
【2日目】 1月23日 (火)		9:35		ホテル発 ※8:45発予定が道路状況が悪く、バス配車が50分遅れ			
	10:15	11:35		苫小牧南高等学校			
	12:00	12:45		【昼食】ウポボイ「アイヌ料理食体験」			
	12:45	14:50	貸切車	ウポボイ民族共生象徴空間 ※白老おもてなしガイド利用	○	○	○
	16:00	17:10		北海道コカ・コーラボトリング視察・体験 ※SDGs教育メニュー			
	17:30	19:10		【夕食】牛屋江戸八 ※しゃぶしゃぶ・すき焼き			
	19:30			ホテル着			
				【宿泊】札幌市内			
【3日目】 1月24日 (水)		8:50		ホテル発			
	9:30	11:00		札幌国際情報高校 学校訪問			
	12:00		貸切車	北村環境改善センター (蕎麦打ち体験・手巻き寿司作り体験・豆腐作り体験)	○	○	○
		16:25		昼食:蕎麦・手巻き寿司			
	16:30			ホテルチェックイン			
				【夕食】ホテル内レストラン ※和食会席			
				【宿泊】岩見沢市内			
【4日目】 1月25日 (木)		8:50		ホテル発			
	10:00	11:30		滝川西高等学校 学校訪問			
	12:10	13:00		スノーモービル・スノーラフティング体験・昼食(深川市)			
	13:00	13:30		松本農場 〒074-0015 北海道深川市深川町メム			
	14:00	15:00	貸切車	【昼食】おにぎり・お味噌汁(農家さんの納屋でランチ)	○	○	○
	16:15	18:00		カーリング体験(インストラクター付)			
	18:10			妹背牛町カーリングホール			
	19:00	20:50		旭川志峯高校 学校訪問			
				ホテルチェックイン			
				【夕食】旭川市内 ※ラム肉料理			
				懇親会:旭川運輸支局 加茂補佐、大雪カムイミントラDMO 山科推進監参加			
				【宿泊】旭川市内			
【5日目】 1月26日 (金)		9:00		ホテル発			
	9:25	10:50		旭川実業高校 学校訪問			
	11:15	12:20		上森米穀店 ※米袋でオリジナルエコバック作り体験			
	12:40			旭川空港着			
	14:00	15:45	貸切車	【昼食】空港内フードコート	○	○	○
	16:20			【意見交換会】旭川空港 会議室			
	18:10			旭川空港→羽田空港(JL556便)			
		22:00		羽田空港到着後、国際線ターミナルへ移動			
				羽田空港→シドニー(QF60便)			

(3) 豪州教育旅行関係者等による北海道現地調査

【教育旅行関係者等の招請】

実施の様子

【1日目】



北海道神宮



北のグルメ亭



エスコンフィールド

千歳空港到着後、北海道神宮を視察。札幌中央卸売場外市場「北のグルメ亭」で海鮮丼など味わっていただいた。その後、エスコンフィールドに移動し視察した。

【2日目】



苫小牧南高等学校



苫小牧南高等学校



苫小牧南高等学校



アイヌ料理食体験



ウポポイ民族共生象徴空間



北海道コカ・コーラボトリング

苫小牧南高等学校に訪問し、授業見学や意見交換会など行った。ウポポイ民族共生象徴空間にてアイヌ料理体験をし、白老おもてなしガイドによる施設を案内を受けた。その後、北海道コカ・コーラボトリングにて工場内見学やSDGs教育メニューなど体験していただいた。

(3) 豪州教育旅行関係者等による北海道現地調査

【教育旅行関係者等の招請】

実施の様子

【3日目】



札幌国際情報高校



札幌国際情報高校



札幌国際情報高校



蕎麦打ち体験



手巻き寿司作り体験



豆腐作り体験

札幌国際情報高校を訪問し、茶道や授業見学、意見交換会などを行った。その後、北村環境改善センターにて、蕎麦打ち、手巻き寿司作り、豆腐作りなど体験していただいた。

【4日目】



滝川西高等学校



滝川西高等学校



滝川西高等学校

(3) 豪州教育旅行関係者等による北海道現地調査

【教育旅行関係者等の招請】

実施の様子

【4日目】(つづき)



スノーラフティング体験



カーリング体験



カーリング体験



旭川志峯高校



旭川志峯高校



旭川志峯高校

滝川西高等学校を訪問し、校舎見学、意見交換会など行った。深川へ移動し、スノーラフティングを体験。昼食後、妹背牛町カーリングホールにてカーリング体験をしていただいた。その後、旭川志峯高校を訪問。校舎見学・部活動見学、意見交換会など行った。

【5日目】



旭川実業高校



旭川実業高校



上森米穀店

旭川実業高校を訪問し、校舎見学、意見交換会など行った。上森米穀店にて米袋でオリジナルエコバック作り体験をしていただいた。その後、旭川空港へ移動し帰路へ。

(3) 豪州教育旅行関係者等による北海道現地調査

【教育旅行関係者等の招請】

課題及び問題点の抽出、整理のための意見交換会

4泊5日の行程内で北海道訪日教育旅行促進協議会構成員を含む招請した教育旅行関係者との意見交換の場を設け、姉妹校提携に係る課題や受入体制、今後の学校交流に関する問題点などを抽出、整理した。

■概要

会場名	旭川空港 会議室
実施時期	2024年1月26日(金) 14:00～15:45
参加者	招請教育旅行関係者、北海道訪日教育旅行促進協議会構成員

■参加者リスト

	所属/役職	氏 名
1	St Peter's Anglican College Broulee (セント ピーターズ アングリカン カレッジ)	TAKAKO HOLSTEGGE
2	Burwood Girls High School (バーウッド女子高等学校)	EDWARD CHARLES KENT
3	Northmead Creative and performing Arts High School (ノースミードクリエイティブアンドパフォーミングアーツ高校)	CONSTANTINA KARAYANNIS
4	Chester Hill High School (チェスターヒル高校)	JENNY C SOBREVEGA
5	北海道経済部観光局観光課 主任	小尾 勇太
6	北海道運輸局旭川運輸支局 首席運輸企画専門官	加茂 聖和
7	北海道運輸局観光部国際観光課 国際第二係	山崎 健太
8	英語通訳添乗員	佐藤 好美
9	JTB北海道事業部	柳屋 みゆき

■オンライン参加

10	北海道経済部観光局観光振興課 主査	清水 宣明
11	北海道運輸局観光部国際観光課 課長	笹野 康幸
12	北海道運輸局観光部国際観光課 外客受入推進係長	小関 慶汰



(3) 豪州教育旅行関係者等による北海道現地調査

【教育旅行関係者等の招請】

課題及び問題点の抽出、整理のための意見交換会

■意見交換会(要約)

【招請旅行を終えての感想】

●JENNY先生

・今回体験させていただいたアクティビティはどれも非常に良く、興味深い。一方、当方では冬の日本へ生徒派遣については検討していない為、時期として検討している秋のコンテンツの情報が欲しい。

●EDWARD先生

・北海道固有の文化(アイヌ文化等)についてはぜひ生徒に紹介したい。
・北海道とオーストラリアの生徒達に共通点が多く、是非お互い行き来する交流を行っていただきたい。
・今回は季節(冬)のアクティビティを楽しませていただいたが、当方の派遣時期は日本の春の季節にあたる。スポーツの交流は非常に大切なのでぜひやってみたい。

●CONSTANTINA先生

・旭川については空港を含めた立地の利点もある。
・今後のファムトリップについては、ぜひとも視察する学校を中心に据えたモデルコースや公共交通機関の情報(コスト)などを詳しく教えてほしい。
・修学旅行を組み立てる場合、どうしても東京や京都、大阪や奈良といったところに行くが、予算を考えると公共交通機関でどのように移動できるかが重要。
・当方が生徒を連れてくるとすると、日本の秋(9月～10月)の時期が多い。この時期に体験できることなどをお教えいただきたい。

●TAKAKO先生

・日本への修学旅行は日本語クラスがメインとなるが、スポーツ(部活)単位での修学旅行にも取り組んでみたい。
・ホームステイはあったほうがいい。
・具体的な訪問は2025年9月か10月を予定している。

【日本側からの質疑と回答】

■招請旅行中最も印象に残ったことは？

TAKAKO先生: アクティビティはどれも素晴らしい。一つに絞れない。一番感心したのは学校訪問先の生徒さんの発表。

JENNY先生: カーリングが非常に楽しかった。

EDWARD先生: 豆腐作りが楽しかったが、どの行程も生徒にとって良い。

CONSTANTINA先生: 自分の手を使って行うクラフト体験は非常に良かった。カーリングが楽しい。やはり素晴らしいのは、しっかりと準備をしてくださった生徒たち。ここでしか学ぶことのできないアイヌ文化についても非常に印象深い。

■来られる時期として適当な時期は？

TAKAKO先生: これまでは4月ごろに来ていたが、9、10月に変更しようと考えている。日本語学校の生徒は9月10月で2週間ぐらい、スキーのグループは冬のシーズンに1週間ぐらいの予定。

JENNY先生: ニューサウスウェルズ州では、9月10月が休みなので、そこで計画している。

EDWARD先生: 春がいいと思う。10月は生徒にとって大きなテストが待っている時期。

CONSTANTINA先生: オーストラリアには3回のスクールホリデーがある。春はベストシーズンだが、予算の関係で避けてしまう。冬休み(12月1月)もあるが、この時期は学校でのイベントが非常に多い。従って秋が考えやすい。

(3) 豪州教育旅行関係者等による北海道現地調査

【教育旅行関係者等の招請】

課題及び問題点の抽出、整理のための意見交換会

■意見交換会(要約)

■最も日本で学んでほしいことは

EDWARD先生:人間のつながりについて学んでほしい。

TAKAKO先生:日本語を学ぶということは「歴史や文化」への理解が必要だと教えている。日本に来ることはそれを知ることにつながる。お辞儀や名刺交換といったことですら新しい経験。

JENNY先生:やはり新しい文化に出会うということが大切。初めて来た国でチケットを買う、食べ物を買うといったことをすることだけでも価値がある。

CONSTANTINA先生:分かり合ったうえで、人間は結局同じ営みをしている、そういう理解が必要。

■北海道がより発信すべき情報は？

・(ファムトリップについて)訪問する学校はより多い方がよい。1日に2校行く日があってもいい。

・私たちは「何を知らないのか？」が分からない。どんな些細なことでも情報を発信してほしい。例えば、ニュースレターなどの形式で情報発信を随時行うということなどを行っていただきたい。

・日本を知るうえで、外せない地域(東京・京都・大阪)がある。北海道を加えるということを考えるためには「外せない地域+北海道」のプランが必要。

・訪日教育旅行のWEBサイトなどがあれば非常に参考になる。

・現地の日系旅行社にお願いしても、なかなか「北海道に行きましょう」という提案はもらえない。現地旅行会社への情報発信なども必要。

・別の地域の事例だが、JNTOなどの機関から情報提供をいただいて、福岡にも目的地となった事例もある。

※訪日教育旅行促進協議会のご紹介を行い、チャットツール等で情報発信。

(3) 豪州教育旅行関係者等による北海道現地調査

【教育旅行関係者等の招請】

行程内での学校視察

4泊5日の行程内で、豪州の学校との姉妹校提携に興味のある学校、将来的に姉妹校提携を予定している学校へ訪問し、授業の様子や部活動の見学など、学校視察を実施した。

■実施概要

日程	2024年1月23日～1月26日 ※行程の詳細は前送
受入校	①苫小牧南高等学校 ②札幌国際情報高校 ③滝川西高等学校 ④旭川志峯高等学校 ⑤旭川実業高等学校
条件	・豪州の学校との姉妹校提携に興味のある学校 ・将来的に姉妹校提携を予定している学校
内容	歓迎式、学校紹介、生徒との交流、授業見学、部活動見学、校舎見学 等

■受入校

①苫小牧南高等学校	【生徒数】469名 【学科】普通科	【姉妹校提携状況】 なし
【特徴】国際交流が盛ん。2021年に「国際交流クラブ」を設立。地元の北洋大が協力し、語学教育に力を入れている。ハロウィンパーティー、クリスマスパーティーなどの行事あり。国際交流プログラムへの参加や、北大の留学生との交流、オーストラリア短期語学研修を行っている。		
②札幌国際情報高校	【生徒数】947名 【学科】普通科、国際文化科、理数工学科、グローバルビジネス科	【姉妹校提携状況】 ◆ITリツエイ校(ロシア・ノボシビルスク市) ◆ボストン ノーブルズ高校(アメリカ) ◆ハルビン第3中学校(中国) ◆サンクトペテルブルク583番学校 (ロシア連邦・サンクトペテルブルク市) 他数校
【特徴】開校から、外国語教育、国際理解教育や情報教育等の充実に積極的に取り組み、これまで、文部科学省や北海道教育委員会から、スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクールなどの指定を受け、学校教育目標「世界の人々から尊敬されるグローバルシチズンとしての日本人の育成」の具現化のため、先進的な教育活動を展開しているリーディングハイスクール。国際ユースフォーラムへの参加や留学生の受入も行っている。		
③滝川西高等学校	【生徒数】669名 【学科】普通科、 情報マネジメント科	【姉妹校提携状況】 ※教育交流提携 ◆ロングメドー高校(アメリカ) ◆ヴィトフェルスカ高校(スウェーデン)
【特徴】礼儀や規律を重んじ『文武両道』を掲げ、部活動加入率が90%以上と高い。全道、全国大会に毎年多くの部が出場。2023年度、サッカー部は「第102回全国高校選手権大会 北空知地区予選」で優勝。様々な資格取得の推進、アメリカ短期留学や姉妹校交流、滝川市国際課等と連携した諸活動、社会的実体験や高大連携事業、各種講習会等が充実している。		
④旭川志峯高等学校	【生徒数】439名 【学科】普通科:特進コース/ライセンスコース/スポーツ教育コース/未来創成コース(2024年4月から 選抜コース/グローバルコース/進学コース/ライセンスコース/スポーツ教育コース)	【姉妹校提携状況】 ◆ダーラーアカデミー高校 (タイ)
【特徴】創立120年以上の歴史を持つ。2023年より今の学校名に変更。文武両道の精神で、部活×勉強、資格×部活、スポーツ×ボランティア、探究×勉強など多くの二刀流の学びがある。進路指導は一人の生徒に対して複数の先生が1年次より面談。卒業後の姿をイメージするためのキャリア教育も実施。留学生受入や異文化交流会を実施。		
⑤旭川実業高等学校	【生徒数】893名 【学科】普通科(難関選抜コース・特別進学コース・進学コース)、 自動車科、機械システム科、商業科	【姉妹校提携状況】 ◆慶福ビジネス高校(韓国)
【特徴】4学科を併せ持つ道内唯一の総合高校。市内随一の広大な敷地に施設・設備が充実。難関大学への進学から地場産業の担い手育成と多様性に富んだ教育『学園は生徒のためにある』を念頭に『思いやりの心を持った粘り強い、逞しい若者の育成』に努めている。就職決定率は17年連続100%。卒業までに全員が3つ以上の資格取得を目指し、国家資格にも挑戦。地域社会から即戦力として高く評価されている。40年以上前から国際交流の伝統があり、アメリカ短期留学やニュージーランド中長期留学など留学制度も充実。多くの体育系部活動が日本一を目標に全国・全道の舞台で活躍。		

(3) 豪州教育旅行関係者等による北海道現地調査

【教育旅行関係者等の招請】

行程内での学校視察(つづき)

■学校視察内容

① 苫小牧南高等学校

2024年1月23日 10:15~11:35

■授業見学

■意見交換会



【北海道苫小牧南高等学校】紹介資料(日本語・英語)

北海道苫小牧南高等学校

【生徒数】 469名 (2023年度)

【学 科】 普通科

【姉妹校提携状況】 なし

【特 徴】

国際交流が盛ん。2021年に「国際交流クラブ」を設立。地元の北洋大が協力し、語学教育に力を入れている。ハロウィンパーティー、クリスマスパーティーなどの行事あり。国際交流プログラムへの参加や、北大の留学生との交流、オーストラリア短期語学研修を行っている。

Hokkaido Tomakomai-Minami Highschool

No. of students 469 students (FY 2023)

Course General course

Sister school partnership None

Features

International exchange is thriving. The "International Exchange Club" was established in 2021. With the cooperation of the local Hokuyo University, we are focusing on language education. Our school holds events such as Halloween and Christmas parties. We participate in international exchange programs, interact with international students from Hokkaido University, and conduct short-term language training in Australia.

【提供資料】



② 札幌国際情報高校

2024年1月24日 9:30~11:00

■茶室でおもてなし

■校舎授業見学

■意見交換会 @会議室



【札幌国際情報高等学校】紹介資料(日本語・英語)

札幌国際情報高等学校

【生徒数】 947名 (2023年度)

【学 科】 ◆普通科 ◆国際文化科 ◆理数工学科 ◆グローバルビジネス科

【姉妹校提携状況】 ◆ITリテラシー校(ロシア連邦・ノボシビルスク市) ◆ボストン・ノーブルズ高校(アメリカ) ◆ハルビン第3中学校(中国) ◆サントペテルブルク583番学校(ロシア連邦・サントペテルブルク市) ◆カイザー校(アメリカ・ハワイ)予定 他数校

【特 徴】

開校から、外国語教育、国際理解教育や情報教育等の充実に積極的に取り組み、これまで、文部科学省や北海道教育委員会から、スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクールなどの指定を受け、学校教育目標「世界の人々から尊敬されるグローバルシチズンとしての日本人の育成」の具現化のため、先進的な教育活動を展開しているリーディングハイスクール。国際ユースフォーラムへの参加や留学生の受入も行っている。

Sapporo Intercultural and Technological High School

No. of students 947 students (FY 2023)

Course ◆General course ◆International Culture course ◆Science and Mathematics Engineering course ◆Global Business course

Sister school partnership ◆IT litsey School (Novosibirsk, Russian Federation) ◆Noble and Greenough School (USA) ◆Harbin No.3 High School (China) ◆St. Petersburg School No. 583 (St. Petersburg, Russian Federation) ◆Kaiser High School (Hawaii, USA) scheduled and several other schools

Features

Since our school opened, we have actively worked to enhance foreign language education, international understanding education, information education, etc. To date, our school has been designated as a Super English Language High School by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology and the Hokkaido Board of Education, and our school's educational goal is "Developing Japanese people as global citizens who are respected by people around the world." We are a leading high school that develops advanced educational activities to realize our goals. We also participate in international youth forums and accept international students.

【提供資料】



(3) 豪州教育旅行関係者等による北海道現地調査

【教育旅行関係者等の招請】

行程内での学校視察(つづき)

■学校視察内容

③ 滝川西高等学校

2024年1月25日 10:00~11:30

- 学校説明
- 校舎見学
- 意見交換会



【北海道滝川西高等学校】紹介資料(日本語・英語)

北海道滝川西高等学校

【生徒数】 669名 (2023年度)	【学 科】 ◆普通科 ◆情報マネジメント科
【姉妹校提携状況】 ◆ロングメドウ高校(アメリカ) ◆フットフェルスカ高校(スウェーデン) ※教育交流提携	
【特 徴】 礼儀や規律を重んじ「文武両道」を掲げ、部活動加入率が90%以上と高い。全道、全国大会に毎年多くの部が出場。2023年度、サッカー部は「第102回全国高校選手権大会 北空知地区予選」で優勝。様々な資格取得の推進、アメリカ短期留学や姉妹校交流、滝川市国際課等と連携した諸活動、社会的実体験や高大連携事業、各種講演会等が充実している。	

Hokkaido Takikawa Nishi High School

No. of students 669 students (FY 2023)	Course ◆ General course ◆ Information Management course
Sister school partnership ◆ Longmeadow High School (USA) ◆ Hvitfeldtska High School (Sweden) *Educational exchange partnership	
Features Our school values courtesy and discipline, promotes "both studies and sports," and has a high student participation rate of over 90 % in extracurricular activities. Many clubs participate in the Hokkaido and national tournaments every year. In FY 2023, our soccer club won the Kita Sorachi District Preliminary Tournament for the 102nd All Japan High School Soccer Tournament. We promote a variety of activities for our students: acquisition of various qualifications, short-term study abroad in the US, exchanges with sister schools, activities in collaboration with the City of Takikawa, International Division, etc., social experience, high school and university collaboration projects, and various seminars.	

④ 旭川志峯高等学校

2024年1月25日 16:15~18:00

- 学校紹介
- 茶道部 御点前披露/校舎見学・部活動見学
- 意見交換会



【旭川志峯高等学校】(日本語・英語)

旭川志峯高等学校

【生徒数】 439名 (2023年度)	【学 科】 ◆普通科:特進コース/ライセンスコース/スポーツ教育コース/未来創成コース (2024年4月から選抜コース/グローバルコース/選抜コース/ライセンスコース/スポーツ教育コースの5コース)
【姉妹校提携状況】 ◆ダーラアカデミー高校(タイ)	
【特 徴】 創立120年以上の歴史を持つ。2023年より今の学校名に変更。旭川で一番古く一番新しい学校。文武両道の精神で部活×勉強、資格×部活、スポーツボランティア、探究×勉強など多くの二刀流の学びがある。進路指導は一人の生徒に対して複数の先生が1年次より面談、卒業後の夢をイメージするためのキャリア教育も実施。留学生受け入れや異文化交流会を実施。2023年、バレーボール部は「第29回全国私立高等学校男女バレーボール選手権大会北海道予選会」で全道優勝。サッカー部は「第102回全国高校選手権大会 旭川地区予選」で優勝。水泳部は「第76回北海道高等学校選手権水泳競技大会」第91回日本高等学校選手権水泳競技大会北海道予選会Jにて200m自由形第3位(インターハイ出場決定)、陸上部は「全国高校総体陸上女子100m」は3位入賞、1600mリレーで初の予選突破・準決勝進出。多数の好成績を残した。	

Shiho High School

No. of students 439 students (FY 2023)	Course ◆ General course / Advanced course / License course / Sports Education course / Future Creation course (5 courses starting April 2024: Selection course / Global course / Preparatory course / License course / Sports Education course)
Sister school partnership ◆ Dara Academy (Thailand)	
Features We have a history of over 120 years. In 2023, our name was changed to the current one. Therefore, our school is both the oldest and newest in Ashikawa. Dual learning based on the spirit of both studies and sports club activities and studies, qualifications and club activities, sports and volunteering, exploration and studies, etc. Regarding academic guidance, multiple teachers conduct interviews with each student starting in their first year. Career education is also provided to help students envision what they will look like after graduation. We accept international students and hold cross-cultural exchange events. In 2023, our both men's and women's volleyball clubs won the Hokkaido Preliminary Tournament for the 29th All Japan High School Volleyball Championship. Our soccer club won the Ashikawa District Preliminary Tournament for the 102nd All Japan High School Soccer Tournament. Our swimming club placed 3rd at the 200m freestyle in the 76th Hokkaido High School Championship Swimming Tournament and Hokkaido Preliminary Tournament for the 91st All Japan High School Swimming Tournament (selected to participate in the Interscholastic Athletic Meet). Our women's track & field club placed 3rd in the 100m race and passed the preliminary round for the first time and advanced to the semi-finals in the 1,600m race at the Japan National High School Championships. They also achieved many other good results.	

(3) 豪州教育旅行関係者等による北海道現地調査

【教育旅行関係者等の招請】

行程内での学校視察(つづき)

■学校視察内容

⑤旭川実業高等学校	2024年1月26日 9:25~10:50
■学校紹介 ■プレゼンテーション ■校舎見学 ■意見交換会 【メッセージ】 本校生徒は、自動車が好き、機械いじりが好き、部活動で全国行きたい、難関大学に行きたい等、目的も学力も様々であるため、他校に比べると多様性に富んでいるのが特徴です。もし、そういった本校の風土が少しでも気に入っていただけると光栄です。	
質問事項 ・今回、御来校される先生の学校はどのような学校カラーか伺いたい。 (どのような学校の特徴や、取り組みを持っているか) ・もし機会があれば次回はこちらが先方の高校へ視察に行くということは可能ですか。	
  	

【旭川実業高等学校】紹介資料(日本語・英語)

【提供資料】

学校法人 北海道立正学園
「旭川実業高等学校」

【生徒数】
893名
(2023年度)

【学 科】
◆普通科(難関選抜コース・特別進学コース・進学コース) ◆自動車科 ◆機械システム科 ◆商業科

【姉妹校提携状況】 ◆慶福ビジネス高校(韓国)

【特 徴】

4学科を併せ持つ国内唯一の総合高校。市内唯一の広大な敷地に施設・設備が充実。
難関大学への進学から地域産業の創生育成まで多岐に亘る教育「実業」は生徒のためにある。
「全国に誇れる思いやり」の心を持った粘り強い、逞しい若者の育成に努めている。就職決定率は20年連続100%。卒業までに全国が3つ以上の資格取得を目指す。国家資格にも挑戦。地域社会から信頼されて高く評価されている。40年以上前から国際交流の伝統があり、アメリカ短期留学やニュージーランド中長期留学など留学制度も充実。多くの体育系部活動が日本一を目標に全国・全道の舞台で活躍。2023年「第29回 日本実業合奏コンテスト全国大会」最優秀賞。
「第10回 全国高等学校ビジュアル・アート2023北海道大会」優勝。入賞。
「第7回 全日本バレーボール高等学校選手権大会 北海道代表決定戦」女子優勝。
「第32回 北海道高等学校女子サッカー選手権大会」兼「第32回 全日本高等学校女子サッカー選手権大会北海道予選」女子準優勝。

Hokkaido Rissho Gakuen
Asahikawa-Jitsugyo High School

No. of students
893 students
(FY 2023)

Course
◆ General course (Selective course for Difficult-to-Enter Univ., Special Preparatory course, Preparatory course)
◆ Automotive course ◆ Mechanical Systems course ◆ Commercial course

Sister school partnership ◆ Gyeongbok Business High School (Korea)

Features

The only comprehensive high school in Hokkaido with four academic courses. The largest school premise in Asahikawa City and fully equipped with facilities & equipment.
We strive to provide a diverse education, from adaptation to prestigious universities to the training of successors in local industries. Keeping in mind that "our school is for the students," we strive toward "nurturing compassionate, tenacious, and sturdy young people." Our improvement rate has been 100% for 20 consecutive years. All students aim to obtain three or more qualifications for their graduation, and some students also take national qualification examinations. They are highly valued by the local community as industry-ready human resources. For more than 40 years, we have had a tradition of international exchange, and extensive study abroad programs such as short-term study in the U.S.A. and medium- to long-term in New Zealand. Many of our sports clubs are active on stages across the country and throughout Hokkaido, with the goal of becoming the best in Japan. Won the Grand Prix at the 20th Japan Wood Orchestra and Ensemble Competition.
One student won and others received awards in the "Hokkaido Tournament" for the 10th National High School Judo Championships 2023.
The women's volleyball club won the "Hokkaido Representative Deciding Match for the 70th All Japan High School Championship".
The women's club won runner-up in the 32nd Hokkaido High School Women's Soccer Tournament and Hokkaido Preliminary Tournament for the 32nd All Japan High School Women's Soccer Tournament.

旭川実業高等学校

旭川実業高等学校

ASAHIKAWA
JITSUGYO
HIGH SCHOOL

(3) 豪州教育旅行関係者等による北海道現地調査

【教育旅行関係者等の招請】

被招請者へのヒアリング調査

4泊5日の行程内で体験した各種メニュー（施設、プログラム、食事等）に係るニーズ、改善すべき点、実際に生徒を受け入れる際に配慮が必要な点、安全面について被招請者ヒアリング調査を実施。

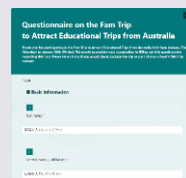
- ① ヒアリングは、Microsoft Formsを活用し、WEBフォームに回答。



- ② WEBフォームで回答が得られない項目等は、直接電話でヒアリングを行った。

MicrosoftForms

Microsoft



▼ヒアリング項目

ヒアリング項目	
1	属性(学校名、氏名、役職、担務等)
2	行程内の各体験メニュー(施設、プログラム、食事等)に係る評価とその理由 (43問)
3	北海道での教育旅行実施の課題について(2問)

▼ Microsoft Formsのアンケートフォーム

Questionnaire on the Fam Trip to Attract Educational Trips from Australia

Thank you for participating in the Fam Trip to Attract Educational Trips from Australia held from January 22nd (Monday) to January 26th (Friday). We would appreciate your cooperation in filling out this questionnaire regarding this tour. Please let us know if you would like to include the trip as part of your school's field trip content.

* 必須

■ Basic Information

1
Full name *

回答を入力してください

2
School name / affiliation *

回答を入力してください

(3) 豪州教育旅行関係者等による北海道現地調査

【教育旅行関係者等の招請】

被招請者へのヒアリング調査

【アンケート・ヒアリング調査結果】

招請者の学校の修学旅行のコンテンツとして取り入れたいかどうかの各設問に対する回答は以下のとおりである。

名前	
① Edward Kent	③ Jenny Sobrevega
② Takako Holstegge	④ Constantina Karayannis

1日目

(共通)A:取り入れたい、B:わからない、C:取り入れたくない

食事(昼食)について		評価	①B ②A ③A ④A
評価・改善点	①料理はとても美味しく、値段もリーズナブルだった。 ②生徒の中には海鮮が苦手な子供もいるかと思います。その場合の別メニューがあればありがたく、そうした対応があればぜひ連れていきたいです。 ③市場には新鮮な魚介類があり、刺身などの伝統的な日本料理を体験できる。漁業のサステナビリティや食事のマナーについて生徒と話し合う良い教育機会になるだろう。 ④料理はおいしかったし、魚市場という立地は、学生に市場や様々な魚介類を見る機会を得られる。		
食事(夕食)について		評価	①B ②C ③C ④B
評価・改善点	①食事はおいしく、また学校のグループには十分な広さだった。学生料金についてはわかりません。 ②学生の修学旅行にはちょっと高級すぎます。 ③食事はおいしく、伝統的な雰囲気のレストランだったが、教育旅行の一環として生徒を連れて行くにはふさわしくない。料理の価格帯は彼らの予算から外れているし、店構えも大人向けだ。 ④食事レストランも素晴らしかったが、学生旅行には向かないかもしれない。		
見学箇所について		評価	①A ②A ③A ④A
評価・改善点	①美しい環境にある北海道の重要な神社は、どの季節でも完璧だろう。観光客でごった返すことなく神社を訪れる絶好の機会だ。 ②ぜひ連れていきたいです。 ③神社を訪問することは、生徒が神道について学ぶだけでなく、文化に浸ることができる貴重な場所になるだろう。生徒は、日本人が神社に入る前にすること(手洗いなど)、お祈りの仕方(お辞儀や拍手)、絵馬やお守りのような様々なものを学ぶことができるだろう。 ④文化的に重要な場所		

(3) 豪州教育旅行関係者等による北海道現地調査

【教育旅行関係者等の招請】

被招請者へのヒアリング調査

① Edward Kent ② Takako Holstegge ③ Jenny Sobrevega ④ Constantina Karayannis

1日目(つづき)

(共通)A:取り入れたい、B:わからない、C:取り入れたくない

見学箇所について		評価	①B ②A ③B ④A
評価・改善点	①素晴らしいスタジアムで、私はツアーを楽しんだが、生徒たちはここでの長い舞台裏ツアーは望まないだろう。建築様式がユニークなので、ちょっとした見学に含まれているかもしれない。 ②バックステージツアーではなくて、実際の野球観戦で行程に入れたいと思います。 ③エスコンフィールドには素晴らしい施設があり、ツアーでは、歴史や、チームが試合やトレーニングでどのように部屋や施設を使用したかについて学ぶことができた。しかし、オーストラリアでは、野球は日本ほど人気がないため、学生はエスコンフィールドを訪れることに興味がなく、ツアーに参加しないかもしれない。 ④生徒たちはきっと面白いと思うだろう。		
体験箇所について【地下鉄乗車体験】		評価	①A ②A ③A ④A
評価・改善点	①特に宿泊した札幌市内のホテルは、市内を移動するのに最適な方法だ。 ②公共交通機関利用は経験させてあげたいです。 ③シドニーには地下鉄がないので、学生にとって地下鉄に乗ることは良い経験になるだろう。切符を買ったり、日本の交通機関が時間通りに運行する様子を見たり、日本人を観察したりするのも良い経験になるだろう。 ④学生にとって公共交通機関を利用する良い経験。		
体験箇所について【狸小路商店街】		評価	①A ②A ③A ④A
評価・改善点	①アーケード体験とショッピングの両方を体験するため、生徒には必ず受け入れられる。 ②ここで晩御飯をそれぞれで購入したり、買い物をしたりできると思います。 ③狸小路商店街は交通の便が良く(地下鉄、電車)、様々なお店が一箇所に集まっているため、学生が迷うことなく集中的に散策でき、商店街内で待ち合わせ場所を決めることができる。コンビニエンスストアやレストランなど様々なお店があり、学生がお土産を買うことができる。 ④商店街は日本の多くの商店街の典型であり、学生にとっては良い経験になるだろう。		
宿泊施設について		評価	①A ②B ③A ④A
評価・改善点	①ホテルは立地・設備もよく、快適で、学校のグループを受け入れることができるようだ。 ②学生の修学旅行の宿泊施設にしては少し良すぎる気がしましたが、金額次第だと思います。 ③ホテルはショッピングやモールなどのアメニティやJRなどの公共交通機関に近かった。これらはすべて徒歩圏内にあり、学校のグループを連れて行くときに便利である。JTBのスタッフによると、このホテルは手頃な価格で、予算内で泊まれるという。 ④ホテルはとても質が良く、朝食も品数が豊富で、選ぶのに苦労した。交通の便も良かったです。もし修学旅行で札幌に行くことがあれば、このホテルを利用したいと思います。		

(3) 豪州教育旅行関係者等による北海道現地調査

【教育旅行関係者等の招請】

被招請者へのヒアリング調査

① Edward Kent ② Takako Holstegge ③ Jenny Sobrevega ④ Constantina Karayannis

2日目

(共通)A:取り入れたい、B:わからない、C:取り入れたくない

食事(昼食)について		評価	①A ②B ③A ④A
評価・改善点	①アイヌの代表的な食材を使った食事はおいしかった。本来の目的である料理教室やその他のアクティビティが含まれていると良いので、1日観光が望ましい。 ②今度旭川に行くほか、アイヌ文化に触れる経験はさせたいので、ウポポイにも行く予定です。 ③アイヌの歴史と文化(先住民族とのつながり)、アイヌの人々と環境とのつながり、アイヌ語をフレーズで学び、現代の日本と比較することができた。博物館ツアーは非常に有益だった。 ④学生にとって、アイヌの人々や伝統的な食べ物について体験し、学ぶことは重要なことだ。		
食事(夕食)について		評価	①A ②A ③B ④A
評価・改善点	①夕食には最高の会場で、大きな学校のグループにも対応できるスペースがある。料理はとても美味しく、典型的な日本料理でした。 ②金額にもよりますが、子供たちも喜ぶと思います。 ③料理は美味しく、食べ放題なので大人数にはもってこい。また、大人数用の席もあり、学生は食事のマナーを学ぶことができる。ただ一つ心配なのは交通手段で、私たちはバスで行き、その後タクシーでホテルに向かいました。近くに公共交通機関がない場合、大人数で行くのは難しいかもしれません。 ④いい経験だった。		
見学箇所について【民族共生象徴空間「ウポポイ」】		評価	①A ②B ③A ④A
評価・改善点	①ウポポイを訪問の一部に加えたいが、交通手段が問題だ。旭川を拠点にするのであれば、旭川にはいくつかの選択肢がある。 ②旭川で検討しています。 ③アイヌのツアーガイドがアイヌの文化や歴史について教えてくれたので、とても勉強になった。アイヌ舞踊には英語の音声もあり、生徒にとっては非常に分かりやすいものであった。博物館も英語と日本語の両方あり、教育的で、オーストラリアの修学旅行に連れて行くのに有益だった。 ④最も興味深く、生徒のためになる。アイヌの文化や歴史を見て体験できる博物館。家屋の再現が特に興味深かった。様々な体験を予約できるのも魅力的。		
体験箇所について【北海道コカ・コーラボトリング】		評価	①B ②C ③B ④C
評価・改善点	①ボトリング工場の見学は興味深く、体験型のアクティビティも良かった。札幌にどれくらい滞在するかにもよるだろう。 ②オーストラリアでも経験できます。 ③飲み物がどのように作られ、どのように配られるのか、その過程を知ることができたのはよかったが、生徒の関心事ではないかもしれない。石けん作りと持続可能性に関するプレゼンテーションは体験型であり、世界的な問題として関連性が高いので、学生にとっては魅力的な活動だろう。 ④興味深かったが、私の学校は同じようなコカ・コーラのボトリング会社から1キロ離れたところにあり、その会社はサステナビリティの機能を多く組み込んでいる。		

(3) 豪州教育旅行関係者等による北海道現地調査

【教育旅行関係者等の招請】

被招請者へのヒアリング調査

① Edward Kent ② Takako Holstegge ③ Jenny Sobrevega ④ Constantina Karayannis

3日目

(共通)A:取り入れたい、B:わからない、C:取り入れたくない

体験箇所について【蕎麦打ち体験・手巻き寿司作り体験】		評価	①A ②B ③B ④A
評価・改善点	①特に、この地域の歴史や農業の性質を知ることができて、とても興味深い経験でした。生徒たちがここでそば打ちや豆腐作りに参加することは思い出に残るだろうし、マイスターたちは人柄がよく、とても時間を割いてくれた。アクセスが問題。 ②そば、豆腐づくりの経験はさせてあげたいですが、場所的に少し難しいと思います。 ③非常に魅力的で、楽しく、教育的な活動だった。農村の農家の人たちが時間を割いて英語で指導してくれたので、修学旅行には最適だった。伝統的な日本食の作り方を実際に学び、その技術をオーストラリアに持ち帰る絶好の機会となるだろう。主な懸念は、公共交通機関の近くにないため交通の便が悪いことで、バスをチャーターする必要があるかもしれない。 ④興味深く、地場産業を支える		
体験箇所について【北村環境改善センター「豆腐作り体験」】		評価	①A ②B ③B ④A
評価・改善点	①そば打ちについては上記の通り。岩見沢に行くのに必要以上に費用がかからず、修学旅行で岩見沢を訪れることが可能であれば、ぜひ行程に含めたい。地域コミュニティをサポートしなければいけない。 ②そば、豆腐づくりの経験はさせてあげたいですが、場所的に少し難しいと思います。 ③そばや手巻き寿司作りと同様だが、非常に魅力的で、農家の方と言語交流ができる大きな機会である。アクセスとコスト次第。		
食事(夕食)について		評価	①A ②B ③B ④C
評価・改善点	①温泉宿に泊まるなら欠かせない。 ②場所とシャワーの問題でこちらも難しいかと思います。 ③日本の懐石料理は非常に楽しかった。伝統的な懐石料理を、素晴らしい盛り付けと地元産の様々な食材で体験できる良い機会だった。ホテルの中でしたが、レストランで体験するのもいいと思います。 ④このホテルには泊まりたくないです。		
宿泊施設について		評価	①A ②C ③C ④C
評価・改善点	①修学旅行の行程で、通常は温泉に泊まるが、この宿を利用すれば、より柔軟に対応できる。唯一の欠点は、内気な生徒のために部屋にシャワー設備がないこと。 ②部屋にシャワーがないのはちょっと難しい。全員が温泉に入るとは限らないし、強制もできない。 ③宿泊施設は、伝統的な和室に寝泊まりし、日本の伝統的な朝食を食べるなど、文化体験としては良かったが、オーストラリアの児童保護法の観点から、部屋にシャワーがない温泉宿に生徒を連れて行くのは適切ではない。 ④子供の保護のため。私が選ぶホテルには個室シャワー設備が必要。		

(3) 豪州教育旅行関係者等による北海道現地調査

【教育旅行関係者等の招請】

被招請者へのヒアリング調査

① Edward Kent ② Takako Holstegge ③ Jenny Sobrevega ④ Constantina Karayannis

4日目

(共通)A:取り入れたい、B:わからない、C:取り入れたくない

体験箇所について【ラフティング体験】		評価	①B ②A ③C ④C
評価・改善点	①ラフティング体験はとても気に入りました。ただ、生徒たちが魅力と感じるかどうかはわからない事と、私たちが訪問する季節(冬)と異なることがハードルになる。農場を訪れるのは素晴らしいが(距離があるので)交通費がどのくらいかかるか気になります。 ②日本語クラスの修学旅行は9, 10月なので無理だと思いますが、スキーグループの生徒は喜んで参加すると思います。 ③とても楽しく、良い経験になりました。しかし、ラフティングやスノーモービルは落下による怪我のリスクが高いと判断されるため、修学旅行に含めるのは難しいです。 ④良い経験ではありますが、修学旅行は秋に実施予定です。		
食事(昼食)について		評価	①B ②A ③B ④C
評価・改善点	①ボリュームがあって、温かく、美味しかったです。私たちが農場を訪れることになれば良いと思います。 ②スキーツアーの生徒には向いているし経験させてあげたい。 ③地元の農家の人が作ったおにぎりや味噌汁を食べたり、議論に参加したりするのは良かったです。しかし、ラフティング体験がオプションになるかどうかはわかりません。 ④修学旅行にはスノーモービルの行程を入れないので、農場には行かないでしょう。		
体験箇所について【カーリング体験】		評価	①A ②A ③A ④B
評価・改善点	①時間が許せば、北海道での教育旅行にこのような体験を含めたいと思います。ただ、ここは通年実施ではないと伺ったので、カーリング体験を実施するのであれば、別の施設になるでしょう。 ②スキーツアーの生徒には向いていると思います。 ③冬に修学旅行を計画するのであれば、素晴らしい経験になる。特に小さなグループに分かれての実施であれば、アクセスしやすいアクティビティになるでしょう。インストラクターの指示が英語で伝えられたのもよかった。 ④秋にしかできない、とても楽しいアクティビティでした。		
食事(夕食)について 旭川市内(ジンギスカン)】		評価	①B ②C ③C ④C
評価・改善点	①素晴らしいユニークな食事体験。ただ、私たちの学校のグループは人数が多いので、今回のお店に入り切らないと思う。 ②修学旅行には向かないと思います。 ③食事は美味しく、ジンギスカンやラム肉を食べるのに良い経験で、少人数のグループには良い環境でしたが、お店は狭く、飲み物の選択肢は大人向けのため、学生や学校のグループを連れて行くには適切な環境ではない。 ④夕食はとても美味しく、個人旅行であればまた行きたいと思いますが、学校のグループでは人数を収容するには小さすぎる。		

(3) 豪州教育旅行関係者等による北海道現地調査

【教育旅行関係者等の招請】

被招請者へのヒアリング調査

① Edward Kent ② Takako Holstegge ③ Jenny Sobrevega ④ Constantina Karayannis

4日目(つづき)

(共通)A:取り入れたい、B:わからない、C:取り入れたくない

宿泊施設について		評価	①A ②B ③A ④A
評価・改善点	①素晴らしいホテルで、駅やバスの近くに位置している。ショッピングへのアクセスが良い。レストランにも近い。 ②金額次第だと思います。 ③公共交通機関や飲食店、ショッピングやデパートへも徒歩圏内で大変便利なホテルです。旭川の中心に位置しているので、学校団体で宿泊する場合には最適です。 ④交通機関やショッピングセンターに近く便利な良い宿泊施設。		

5日目

体験箇所について【米袋でオリジナルエコバック作り体験(上森米穀店)】		評価	①A ②A ③A ④B
評価・改善点	①素晴らしいが、より大きな会場を借りる必要がある。それがクリアできれば、素晴らしい体験型アクティビティとなり、全員にお土産を持ち帰ることができる。 ②ぜひ経験させてあげたいです。 ③お米の試食(お米を食べるとどのように味が違うのか)や持続可能性をテーマにしたディスカッションなど、非常に教育的で有益なセッションだった。生徒たちは、米袋を使うことで得た知識や技術を自分たちの生活に生かすことができる。オーナーは非常に魅力的で、歓迎もしてくれた。 ④私はこの訪問を楽しんだし、その価値はあると思うが、旅程の中でどのように機能するかを考えなければならない。		
食事(昼食)について【旭川ラーメン村】(紹介のみ)		評価	①B ②A ③B ④B
評価・改善点	①可能かもしれないが、天候や交通の便を考えると空港に行く必要があったため、体験することはできなかった。美しい街を拠点にすれば、北海道らしい体験ができる。 ②これもぜひ行程に入れたい。 ③時間の関係で体験しなかったのでお答えできませんが、旭川ラーメン村で食べることができなかったのも、修学旅行に入れるかどうか判断できません。 ④行けなかった。		

(3) 豪州教育旅行関係者等による北海道現地調査

【教育旅行関係者等の招請】

被招請者へのヒアリング調査

① Edward Kent ② Takako Holstegge ③ Jenny Sobrevega ④ Constantina Karayannis

全体を通して

北海道での教育旅行実施の課題について

- ①北海道は修学旅行に組み入れることが可能な目的地だと実感した。旭川で2、3泊した後、ウポポイへのアクセス次第では札幌で1、2泊し、鉄道で東京に移動してツアーを続け、大阪で終了することができると思う。問題は、地方への移動とウポポイである。
- ②大変貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。初めての試みということもあったと思いますが、あまり事前情報を頂けていなかったように思います。先方の学校も少し困惑されていた感じを受けました。ただ、私共はおかげさまで旭川実業高校様と交流を始めるように話が進んでいます。ほかの3人の先生方もそのように進んでいるといいなと願っています。
- ③最寄りの駅や地下鉄、バスやタクシーが必要かどうかなど、訪問した場所や学校への行き方を知っておくといでしょう。これは修学旅行の計画を立てる上で、予算や費用の計画を立てる上で、交通手段が利用しやすいかどうかを知る助けになります。私たちはバスに乗っていたので、グーグルマップで近くに駅があるかどうか調べたり、通訳に交通機関について尋ねたりしなければならなかったもので、判断するのが難しかった。
- ④各校の近くにある公共交通機関で簡単に行けるアクティビティについて、もっと情報があれば役に立つ。また、生徒がどのように学校間を往復するのかについての提案もあるとよかった。生徒が旅費を払えるように、費用を最低限に抑える必要がある。毎日バスを雇うとなると、費用がかさみます。

その他感想や要望など

- ①修学旅行の目的地として、北海道とその魅力を紹介する素晴らしい旅だった。また、一人旅で北海道を訪れたいと思います。この旅を実現し、スムーズな旅にするために精力的に働いてくれたすべての人に感謝します。私たちは、今年の10月の旅行の後、2026年に再び日本を訪れ、北海道を訪れたいと考えています。
- ②とても細かいお気遣いをしていただいて、JTBツアーコンダクターの方にはとても感心いたしました。通訳の方もとてもこまめに対応されていました。国土交通省の同行された方々も常に私共そして学校、アクティビティ先の方々に気を配られていました。
- 当校は2025年の9月末～10月の修学旅行を計画し始めました。札幌、旭川を滞在地に含めています。うまくいくことを願っています。この度は本当にありがとうございました。そして、お世話になりました。
- ③これらの場所／宿泊施設／アクティビティへの行き方、つまり交通の利便性を組み込むといだろう。JTBのアプリの注意事項やパンフレット、ウェブサイトを利用するのもよい。冬に楽しめるアクティビティについて参考になったが、修学旅行で生徒を連れて行くには最適な季節ではないかもしれない。私の学校では秋か春に旅行を考えているので、その季節に完結するアクティビティや名所があると良いと思う。水や雪を使うアクティビティは、生徒が怪我をする危険性が高いので、スノーモービルやラフティングのような体験は難しい。そば打ちやエコ米袋作りのようなアクティビティはリスク評価が低く、非常に魅力的で教育的なアクティビティである。文化的、体験的、教育的なアクティビティは、教育的な修学旅行の一環として取り入れるのに適したアクティビティである。素晴らしい体験と、自治体や学校とつながる機会をありがとうございました。
- ④札幌でのアクティビティとホテルについては、興味深かったし、質についても申し分なかったので、参加させるつもりだとコメントした。旭川の学校と関係を築きたいと考えているので、札幌での活動は考えていません。最終日の夕方、旭川の担当者と話したところでは、9月の訪問には、もっとアクセスしやすいアクティビティがあるのではないかなと思った。9月、10月のNSWスクールホリデー訪問のための、より多くの情報と旅程のサンプルがあればありがたい。おそらく学校向けの特別プランもあると思います。私の学校では、2025年に2週間の旅行を計画し始めていますが、東京、京都、奈良、広島を訪問し、北海道を観光したいと考えています。

(3) 豪州教育旅行関係者等による北海道現地調査

【教育旅行関係者等の招請】

地元メディアの取材

招請者が視察した学校で、地元メディアの取材を受けた。

【苫小牧民放】1月24日 新聞



【NHK旭川】1月26日WEBサイト



【プレス空知】2月10日 新聞



招請終了後の実績

- ・一部の招請校が一部の受入校との交流を進めている。
- ・2025年9月に東京・札幌・旭川・広島のルートで企画中。

(3) 豪州教育旅行関係者等による北海道現地調査

【教育旅行関係者等の招請】

教育旅行関係等の招請の総括

2日目の悪天候により視察スケジュールに一部影響が出たが、概ね予定通りに実施することができた。被招聘者からは、訪問した学校や観光コンテンツの印象をタイムリーにご教示いただいた。航空アクセスなど、現段階では解決できない課題も存在するが、北海道での豪州教育旅行の誘致の可能性は非常に高いと感じている。

学校視察について

当初、企画段階では2校程度の視察を予定していたが、豪州側から4校が参加するため、最低でも4校の視察を実施することを強く希望された。そのため、5校の視察を実施することができた。

各学校では授業の中で、様々なおもてなしを準備しており、豪州だけでなく、北海道側の期待も感じる場面が多々あった。訪問した学校の取り組みやホスピタリティに対する評価は非常に高く、豪州からの招聘者も大変満足されていた。

ただし、今回の視察では各学校で90分の時間を設けたが、全く時間が足りず、今後の実施においては最低でも2時間の確保が必要だと感じた。

より深い理解や交流を図るために、十分な時間の確保が重要であった。

今後は、豪州及び各国からの訪日教育旅行に対する需要が高まっていることを踏まえ、視察のプログラムやスケジュールの改善を検討し、より充実した体験と学びを提供できる設計にしたい。

体験コンテンツについて

「ウポポイ(民族共生象徴空間)」、「カーリング体験」、「米袋エコバック作り体験」の3つは特に評価が高かった。また、「地下鉄体験」「狸小路」「北海道神宮」も高評価であり、独自性のあるコンテンツの評価は高い。

比較的評価の低かった「コカ・コーラ」は、豪州でも同様の体験ができるとのことだった。

また、「SDGs教育」という観点(説明)も少しわかりづらい感じがした。

深川市でのスノーラフティング体験は「危険」と捉えていた先生もいらっしまった。

「ホームビジット」的な要素を期待していたが、その雰囲気を感じられなかったことも残念であった。

今回のようなファムトリップでは初訪問と思われる、岩見沢市の宿泊施設では、地域の皆さんと一緒に「蕎麦打ち体験」「手巻き寿司作り」「豆腐作り」を体験したが、宿泊する地域の産業を知り、言葉は通じないものの、一生懸命笑顔で対応してくださる地域の方々と過ごすことが生徒たちにとっても良い体験になると評価をいただいている。

その他

招聘者の帰国後、一部の招請校と一部の受入校の姉妹校提携に向けた交流が始まっている。

そして、2025年9月には「東京」「旭川」「広島」を訪問する教育旅行が実施予定となっている。

今回の招請を通じて、豪州の教育旅行誘致において「姉妹校提携」が重要であることが分かった。

また、教育旅行の誘致には本事業のように先生を対象にしたファムトリップが有効であることも実証できた。

今回招聘した4校については、JTBオーストラリアと連携し、引き続き北海道に関する情報提供を継続していく予定である。

「教育旅行」は、リピーターや新規顧客の拡大にもつながる究極の「持続可能な観光」と捉えている。北海道が豪州にかかわらず、世界中から「日本の教育旅行の聖地」と称されるようになるために、今後も様々な取り組みを行っていく。



総括

調査を終えて

1. 訪日教育旅行の現状と課題

北海道における訪日教育旅行の拡充は、今後の北海道インバウンド観光の推進、あるいは国際的な交流を通じた教育の観点から非常に重要なテーマである。本事業では、北海道内の高等学校への実態調査、道外における先進的な取組を行っている事例の調査、豪州の学校に対するアンケート調査の3つの調査に加え、豪州から北海道での学校交流に興味を持っていただいた4名の学校関係者を招き、姉妹校提携や学校交流における実態の把握と課題の抽出を試みている。

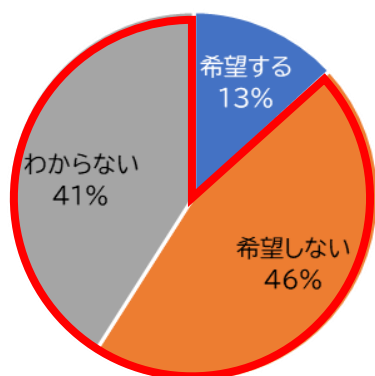
北海道内の高等学校においては、全体の7割が海外との学校交流を行っておらず、まだまだ拡大の余地があるという判断ができる。一方で、学校交流の教育意義は理解しつつも、知見や人員に不足があるため、なかなか実施に踏み込むことが出来ないという事情を窺い知ることが出来た。

(P9 問1-1、P16 問4回答より)

さらに、北海道内のアンケートにおいて、今後の姉妹校提携や学校交流の実施意向を確認すると、「希望しない」「わからない」といった回答が約9割を占めている。(P14 問2回答より)

これらの理由を確認すると、「学校の体制」や「ノウハウ不足」といった回答が多く、取組みを積極的に行うことができない状況も見えて取れる。(P16 問4、P17 問5回答より)

今後の海外学校との学校交流の受入意向についてと主な理由



希望しない	わからない
ノウハウ不足	自校体制
自校体制	検討中
既存交流あり	ノウハウ不足
言語の問題	既存交流あり

希望しない／わからないとの回答が合計で87%
それぞれの理由には共通項がある。

2. 北海道の優位性

豪州のスクールホリデーは季節ごとに数回あるが、豪州現地アンケート調査より、人気のシーズンが「1月」であることがわかっている。また、教育旅行関係者の招請の際、参加者からのコメントにおいても、秋の訪問意向が多い一方、スキーズのシーズンに訪問したいというコメントもあり、北海道のポテンシャルとして、世界有数のパウダースノーと称えられる雪質や豊富なアクティビティがあることは豪州の教育旅行を受け入れするにあたり高い優位性がある。(P47 問3-4回答、P70コメントより)

さらには、少数民族であるアボリジニやトレス海峡諸島民等を抱える豪州では、北海道におけるアイヌ民族文化の学習は非常に有益と捉えられる。(P78コメントより)

上記より、北海道が豪州向けの教育旅行プログラムの充実を図っていくにあたっては、北海道の特徴的な風土や環境、文化を生かしていくことが重要と考えられる。

豪州との取組における北海道の優位性

冬季間の体験

・豪州のスクールホリデーとの時期の一致。
・スキーをはじめとしたスノーアクティビティの充実

文化体験

・少数民族の共通性
・北海道の特徴的風土
・農業などの産業
・北国の生活体験

※主として招請者ヒアリングより

(4)事業のとりまとめ

調査を終えて(つづき)

3. 日本との姉妹校提携、学校交流の位置づけ

今回の豪州アンケートの回答者93校は、いずれも日本の学校と何らかの交流のある学校となっている。これは(株)JTB オーストラリア支店が保有するスクールリストに掲載のある学校(948校)のうち、約1割が日本と交流を持っている状況を示しており、交流先として比較的認知はされている。

一方、北海道と交流がある学校は93校のうち約4%(3校)であった。人気の訪問先は関東圏(東京周辺)となっている。教育旅行関係者招請の際の参加者コメントでは、学校や観光施設へのアクセスやコストが課題として多く挙げられている。(P44問1-2、P76～81コメントより)

今回の調査や招請で挙げられた課題をいかにクリアしていくかが今後の交流拡大の鍵となる。

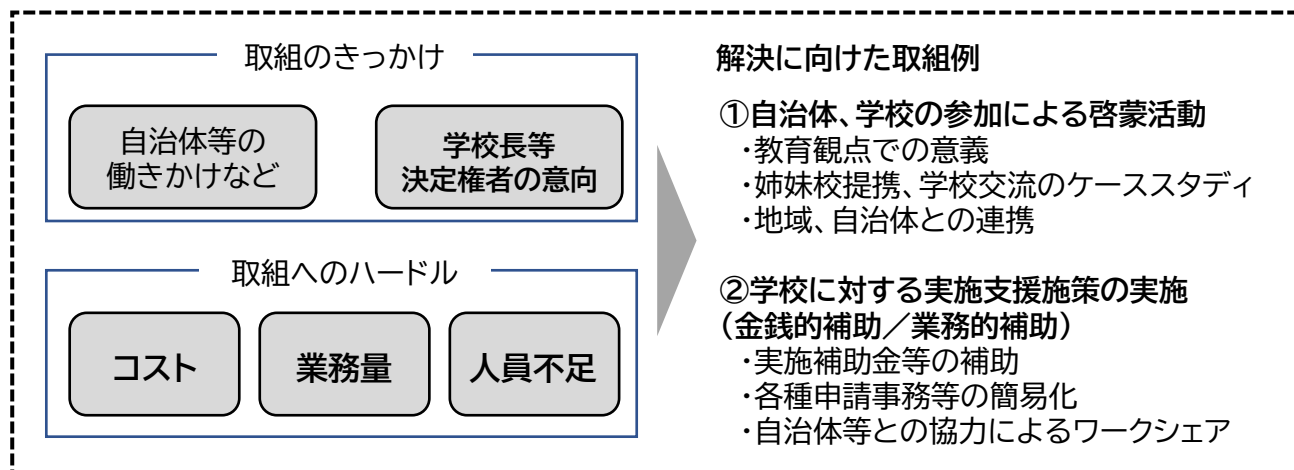
4. 姉妹校提携・学校交流を始めるきっかけ

北海道内で姉妹校提携、学校交流を能動的に進めている学校が現在に至るまでその取組が続けている事例に注目すると、学校所在地がある自治体が海外の都市との間で姉妹都市提携を行っているケースが多く見られた。地域の要請に応える、もしくは地域との協力関係にあると交流の継続につながる可能性が高い。また、取組に積極的な校長や教師の働きにより取組が内部から開始されているケースも存在している。(P26問12回答より)

こうした結果から、自治体や教育関係者に対し、姉妹校提携や学校交流の意義、具体的な取組のケーススタディなどの情報共有や啓蒙活動を行うことにより、北海道内の訪日教育旅行の取り組みが拡大し、実績が増えていくことが、北海道のファン数の増加や受入れる側の質の向上にも繋がると考えられる。

5. 訪日教育旅行受け入れの為に必要と考えられること

豪州からの訪日教育旅行受け入れについては、課題感や優位性については前述の通り。「コスト」、「業務負担」、「人員不足」といった課題の解決にあたっては、北海道の各高等学校に対して啓蒙を行うことに加え、学校の取り組みや受入れ体制に関する自治体の助成・協力等、幅広い関係者が様々な観点からサポート、対応していくことが必要となる。



事業総括

訪日教育旅行の拡大に向けた姉妹校提携、学校交流の重要性

訪日教育旅行の促進は本書冒頭に記載している通り、「若年層の交流拡大による国際相互理解の増進」や「地域社会の活性化」、「将来の観光リピーター層の獲得」という観点から重要な取り組みと位置づけられている。本事業では、北海道内における訪日教育旅行受入れの実態を調査し、現状や課題を分析することにより、今後の取り組みの方向性や受入体制の向上に寄与することを目的として実施した。

各調査を進めると、北海道において姉妹校連携や学校交流といった取組みには一定の難しさがあることが分かった。学校単位としての取組みについては、学校の教育・経営理念のほか、先生の意向等により取組を行っていない学校も多く、学校ごとに事情は異なる。

一方で、自治体が姉妹都市提携などを行っているといった外部環境によるきっかけがあると、姉妹校提携の取組みにつながっているケースも多い。

また、継続的な実施についても一定の難しさがある。きっかけを得て、互いに交流が始まっても、時間が経過するにつれ、自治体との協力が終了したり、学校内におけるキーパーソンの異動等により、交流が途絶えるといったケースもある。

このため、各学校における取り組みを持続的に拡充していくためには、意義や知見の啓蒙のほか、自治体等の継続的なサポートが必要である。

他方、豪州市場の場合、海外交流に対する各学校の意識が比較的高く、教育的観点からも実施を望んでいる状況がある。本事業の調査では、北海道への招請を望む声が多くあることが分かったほか、本事業の招請により、実際に学校交流が始まっていることは一つの成果として挙げられる。

今回の調査で判明した課題やニーズを踏まえ、自治体や教育関係者等の関係者と最新の教育旅行の状況やメリット等を共有し、実際に海外学校と道内学校の交流を創出していくことが、訪日教育旅行の継続的な拡大に繋がっていくと考え、本調査の総括とする。

以上